英国春秋

2021年 春号 ISSUE 38 (令和 3年) 発行 英国日本人会

はじめに

今年は春の訪れがとても待ち遠しく感じられました。数日続いた2月の大雪や連日の雨に、ロックダウンの惨めさも加わり、とにかく"春が来れば"という気持は例年にないほど強いものになりました。でも待ちわびた甲斐があり、ワクチン接種も順調に行われ、学校も始まり、徐々に封鎖が緩和されて行くようです。ただし今年は春爛漫と心の底から喜べない、何かわだかまりのようなものが胸のうちにあるのも確かです。そのうち、太陽と青空の輝かしい夏の日を、木々の黄葉とリンゴのたわわに実る豊穣の秋を、心から楽しめる日がやって来る・・・、そんな思いに耽る今日この頃です。

3月8日は「国際女性デー」だったそうです。"そうです"とは他人事のようですが、具体的には何もせず、何も出来なかったからの言い訳。ただし女性デーに因んで色々と考えてはみました。この日は「メーガン&ハリー」さんのインタビューのイギリス放映日と重なりました。

人種差別と精神疾患病について、彼女の経験に基づきそれに焦点を絞ったコメントは、電波に乗ってあっという間に世界の隅々に飛び散り、大きな反響を呼びました。"77億総メディア狂"の時代ですね。その内容の是非論は別として、この番組で「言う方が勝ち」かなを実感した2時間でした。それから数日してサラ・エバラードさんの誘拐・殺害事件がおこりました。女性の安全を求めての抗議デモに、警察がロックダウン中だという理由で、強硬手段に訴えたそうです。規則が先か心情が先かの問題になりますが、地面に押し倒し手錠をかけてまでの取り締まりは行き過ぎのような気がしました。これが力の強い男性ならそう簡単に抑え込むことが出来たとは思えませんが。

ミャンマー軍事クーデターに対する抗議デモが連日続く中、その衝突は日増しに悪化し、死者の数も約140人を超えたと報道されています。その中に女性や子供たちが多くふくまれているそうです。ロヒンギャ難民問題では何かと批判のあったアウンサンスーチーさんですが、国民から絶大な信頼を置かれている彼女を軟禁し、その居場所さえ分からないとはどう言うことなのでしょか。あれだけ激しく長期間抗議を続けた香港の人々も、最後は強権の前に屈してしまったようです。ミャンマーがその二の舞にならないことを心から祈りたい思いです。

明治44年に「女性の自己解放」をうたって平塚らいてうさんらが女性雑誌「青鞜」を刊行しました。その雑誌の巻頭に与謝野晶子さんの「そぞろごと」が載りました。少々古めかしい表現があるのですが、女性デーに因んで、その一節を引用してみたいと思います。

山の動く日来 (きた) る。 かく云へども人われを信ぜじ。山はしばらく眠りしのみ。 その昔に於いて 山は皆火に燃えて動きしものを。されど、そは信ぜずともよし。 人よ、ああ、唯これを信ぜよ。すべて眠りし女 (おなご) 今ぞ目覚めて動くなる。

『英国春秋』のライバル誌、「文芸春秋」の3月号で芥川賞の発表がありました。もっともライバル 視しているのは全くの一方通行で、先方は我が誌の存在すら知らないことでしょうが。受賞作品は、 宇佐見りんさんの「推し、燃ゆ」でした。作者は20歳の大学生、その豊かな文才には目を見張る ものがありましたが、若者言葉が頻繁に飛び交う内容に、つい眉をひそめてしまいました。題名に ある"推し"とは一推しメンバーの略語だそうで、自分の好きなアイドルグループの中で一番贔屓 な人というのを始めて知りました。主人公は高校を中退する16歳の女の子ですが、「推しを推さ ないあたしはあたしじゃなかった。推しのいない人生は余生だった」と言わしめるは、そこまで彼 女を追いつめてしまったのは一体何故かとつい考え込んでしまいました。かつて、「人生これ不可 解なり・・・」と世を憂い華厳の滝に飛び込んだ藤村操という高校生がいました。彼は死を選び、 この小説の主人公は"推し"にすべてを賭ける、と一見違いがありそうですが、悩める若者という 点では共通点があるのかもしれませんね。この作者の文章は若いのに非常に完成度が高く、至る所 にはっと息を飲むような描写が出てきますが、反面、新語の濫用で主人公の会話言葉と内面告白の 言葉に大きなギャップを感じてしまいました。新語と呼ばれるほど新しくはありませんが、ヤバイ、 エグイ、メッチャ、ダサイ、マジでなどが出てくると溜息が出てしまいます。また、スクショ、コ ピペ、フォントなどスマホ・PC 用語が日常会話として使われ、そのうちに昭和生まれには"注釈" が必要になるのではとつい危惧してしまいました。明治生まれだった祖父母の眉のひそめ方に、私 も似てきたかしらと、思わずにはいられないひと時でした。

* * * * 6 < C * * *

はじめに		2
もくじ		3
コロナ蔓延奮闘(?)記	加藤節雄	$4 \sim 5$
昔、今、そしてこれから	津久井安子	$5 \sim 7$
「即興詩人」と「ゴンドラの唄」を追いかけて	中沢賢治	$8 \sim 9$
明日も本番!	正木裕子	$10 \sim 12$
英国の料理・マイクさんは北アイルランド人	石山 望	$1 \ 2 \sim 1 \ 4$
「観察」 形と動き・音と動き	須永静江	$15 \sim 17$
「英国春秋俳壇」 霜の色 エリス	ナットつや子	18
「英国春秋歌壇」 三輪の花	バロー典子	1 9
映画製作に情熱を注ぎ込む今日	渡邊道英	$20 \sim 22$
IT 万事屋の Covid-19 奮闘記	山本 学	$23 \sim 25$
カエサルと漱石	小川のり子	$26 \sim 29$
小学校四年生	ビドル惠	$30 \sim 33$
ポエム ベゴニアの花・冬支度・かぼちゃ他	田村陽子	$3.4 \sim 3.5$
桜植樹委員会の一員となってウィン	/ター千津子	$36\sim37$
コロナ時代の歌舞伎の味わい方	三宅和子	$38 \sim 39$
コロナウイルスがなければ	伊東敬行	$40 \sim 45$

特別寄稿

中沢賢治氏 (元在ロンドン国際機関職員)

正木裕子氏 (オペラ歌手・ブラッセル在住)

三宅和子氏 (東洋大学日本文学文化学科教授)

(アイウエオ順)

コロナ蔓延奮闘(?)記

加藤節雄

<イギリス人の歴史観>

齢のせいだろうか、最近は歴史的にものごとを見るようになってきていることを感じる。イギリスの持つ文化的背景がそうさせているのかも知れない。英国ではテレビや新聞で、「今日は○○の記念日」、「明日はXXから100年目」といったニュースが毎日の様に報道される。特に戦争に関するものが多く、そのたびに軍服を着て胸にメダルを沢山着け、背筋をピンと伸ばした90歳ぐらいの老人が登場し、あの時はああだった、こうだったと述べる。過去において多分どの国よりもたくさん戦争をしていると思われるイギリスだけに、毎日何らかの戦勝記念日があるようだ。

日本も英国も長い歴史を有する国である。しかし、イギリスは歴史を大事にすることに関しては日本の比ではないようだ。私はかつてこの国を『記録と保存の国』と称したことがある。日本の雑誌の仕事で英国伝統の店や団体を訪ねたことが多々あるが、そこに保存されている記録は並大抵のものではない。

サビル・ローにある老舗のテーラーを取材したことがある。その店はかつてロンドン大使だった吉田 茂が在任中に背広を注文していた店で、その型紙が長い間保存されていた。店の店主はイギリスよりも 日本で保存するのが適切という判断で、その型紙を吉田茂が日本へ帰国後使っていた銀座のデパートに 寄贈した。面白い話なので、追跡取材として日本のデパートに型紙の存在を確認したところ、もう使うこ

ともないので処分してしまったという返答だった。

日本は第2次大戦でほとんど記録が消失してしまった。また、土地が狭く地震や台風などの自然災害もあり、記録保存が容易ではないことは分かる。私自身もイギリスに来たての頃は、「イギリス人は過去にばかり目が行っており、発展性がない」などと大言壮語していたが、少し齢を取ってくると、自分は過去の歴史の上に存在しており、その歴史の流れに沿って生きているという感覚が強くなってきている。歴史を大事にするのは「余裕」であり、極端に言ったら「文化」でもある。イギリス人は昔からその「余裕」

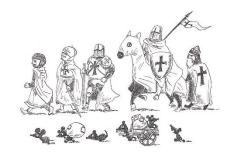
や「文化」を持っていたということになりそうだ。

<パンデミックの歴史的考察>

ここでイギリスの文化論を展開するつもりは毛頭ない。コロナ蔓延奮闘記について書くつもりでコンピューターに向かった。ところが、果たして自分は奮闘しているかどうか疑問である。昨年3月の第1回ロックダウン以来、私はデボンの家の方で生活している。デボンは人口も少なく、英国の中でも感染率の低い地域である。買い物はデリバリーを頼み、近くにスーパーもあるので困らない。近所の人も親切で何やかやと助け合いをしている。仕事もすべてオンラインでこなしている。

ただ、つらいのは今までフリードムパスを使って毎日の様に出かけ、展覧会を見たり、会合に参加、パーティーに呼ばれ、友人たちとレストランで食事をし、パブでお酒を飲んだりしていたことが一切できなくなり、じっと我慢していることである。これが奮闘と言えるかどうか分からないが、もしこれを奮闘と呼んだら、実際にコロナに感染し、生死のはざまをさまよってきた人に対して申し訳ないので、奮闘とは呼ばないことにしている。

パンデミックは歴史上何度も起こっている。コレラやチフス、ペストや天然痘、結核からエイズに至るまで、世界的に蔓延した伝染性のある病気は数え上げたらきりがない。インフルエンザ(フルー)系のパンデミックだけでも、ロシア・フルー(1889-1890)、スペイン・フルー(1918-1920)、アジア・フルー(1957-1958)、香港フルー(1968-1969)、新型インフル(2009-2010)等多様だ。特に第1次大戦中に起こったスペイン風邪はアメリカで発症し、アメリカがヨーロッパ戦線に兵士を送り出してから世界的に蔓延し、5000万人以上の命を奪った。



そんな猛威を奮ったスペイン風邪も2年間で収束している。フルー系のパンデミックはほとんどが1

年前後で治まるというのが過去の例だ。だからと言って、今回の Covid-19 が 1 年間で治まると言っているのではない。今回の新型コロナウイルスは昨年 1 月に中国で発症してからすでに 1 年以上経っているが、変異種が出てきたりして治まる気配がない。それでもワクチンの開発、治療の向上で先進国における死亡率は減少しており、ワクチン接種の効果も徐々にではあるが出始めている。

スペイン風邪の世界的大流行時に比べれば、現在は医療技術も進み、情報も早い。世界の科学者(政治家ではない)が必死になってこのパンデミックの解決策を探している現状を鑑み、私は今回のパンデミッ

クの解決にそれほど悲観的ではない。歴史的に見れば、わずか短期間のことであり、100年後の人たちはそんなこともあったのかと思うだけかも知れない。



しかし、そんな他人事ではもちろん済まされない。我々は現に歴史的なパンデミックの真っ只中におり、死者もたくさん出ている。我々は注意に注意を重ねて、少しでも感染しないよう、感染を拡大させないように努力しなければならない。そして、近い将来パンデミックが治まった際には、歴史の1ページを経験したことを、誇りとは言わないが、貴重な経験だったと思いたい。

昔、今、そしてこれから

津久井安子

子供の頃から人間は特別な存在、「万物の霊長」である、だから「人間として恥ずかしくない様に!」と 躾られてきた。 それなのに理科の時間に「サルから進化した・・・」と学んだ時には「そんな馬鹿な!」 と山で見た猿たちがどうしてもご先祖様とは信じられなかった。

しかし人間は「道具を使い、言葉を話し、火を使う。これは他の動物には出来ない事だ」は成るほどと思えたし、そう信じて生きて来た。

ところがアッテンボローのテレビ番組で、小枝を加工して穴の中の虫を釣り上げるカラスの様子を見て、「道具を使うのは人間以外にもいる。」と知らされた。改めて考えてみるとそれよりはるか前に疑似餌を使って魚を獲る鷺の事は読んだり見たりしていたのだが、彼らが疑似餌にふさわしい物を選んでいる事には少しも気が付かなかった。身を隠すためのココナツの殻を注意深く選ぶタコや、それらしきイソギンチャクを纏うヤドカリ、貝を割るために石を使うラッコや大きな木の葉を傘に仕立てたオランウータン、チンパンジー以外にも硬い木の実を砕くために石を使う動物は居る。この項は「人間だけが、(道具

を作る為の)道具を作ることができる。}と変更されたと知ったが、これには困った。不器で既に作り出されている道具さえも満足に使えない私に"あなたは人間失格では無いか"と言うようなものである。

唯一救われるのは、我々の DNA は最初の菌類やバクテリアと全く同じ構造を持ち、60%以上が原始のままのコピーで出来ている、一番近いと思われるチンパンジーとさえ1.2%しか違わない。だから理性で感情や好悪などをコントロールすることは、ほぼ不可能であるーーと言う事で、これは食べ過ぎた時に自分の意思の弱さを嘆くことなく、科学的な言い訳と重宝している。



言葉の使用についても鳥や野生動物の研究が進むにつれて、彼らの伝達方法が私たちと異なるだけで、 以前考えられていたよりもはるかに複雑、巧妙、多様で(クジラのオスは同じラブソングを二度と使わな



い、相手・時・場所で即興的に呼びかけをする、)動物界にもシンガーソングライターは居たのだ。鳥の中にも必要も無いのにその時の気分で、人の話し声や川のせせらぎ落ち葉のカサコソする音さえ真似して楽しんでいるガビチョウもいる。野生の鳥はちゃんと鳴き方を勉強し喉を鍛えるし、動物もそれぞれどのような場合にどんな声を出すか、または出してはいけないか学ぶ。ナマケモノのテレパシーは、なんキロも離れた場所でも利用可能とか! 植物さえ微弱電波を使って情報交換をしている!

そしてこの項目は今では「人間だけが単語としての"言葉"ではなく構造を持つ"文"の使用」と定義されている。日本語の文法は記憶から消え去り、その上いくら学んでも身に付かない"英文法"、人間であることがこんなにも難しいとは!

最後に残った火の使用について、これは「"火"よりも"高度な知能"」と改変された。

何故か理由を知りたいと思ったが、未だこれはと言う説明を見つけられないでいる。

火の使用は食べる事や、危険な獣を遠ざけ、土器を作る等どれも他の動物とは全く違う点に見える。 これが地上の至る所に人が住めるようになる事を支えたのだと思う。

半面、インダス文明の膨大な焼きレンガ生産や万里の長城建築は森林を消滅させたし、英国もかつては全土が鬱蒼たる森林におおわれ、シェークスピアの時代でさえマクベスに出てくる魔女の住む森は至る所に有った。しかし取り敢えずの利益を優先し木々を失った土地がもろくなり、土壌を失えば耕作できなくなることを、誰も考えなかった、と思う。

私は若いころに「原子力発電は、夢のエネルギー!」との言葉を信じて、その危険性を知ろうともしなかった。

そのまま過ぎた十数年後、"科学者の立場から考える、原子力発電"の講演会にうきうきと足を運び、そして初めて原発を十分コントロールする技術や設備も無く、それらはいつまで待てば出来るのかと言う科学的な見通しが無い事を知った。それなのになぜ沢山の原発が作られているのか知りたくて、無料・昼食・お土産付きの新潟の柏崎原発見学会に参加した。

一通り所内を見た後で、巨大な反応炉を見下ろしながら、「何か質問は有りませんか」と訊かれて「万一事故が起こった時には、どうするのですか」と安全を何回も繰り返し重ねて聞かされた後なので恐る恐る尋ねてみた。「その時にはこの巨きな炉全体がたった2分間で水に満たされ冷やされて安全になります」と、ガイドさんがにこやかに答えた。

核の連鎖反応は、一秒も待たないで制御不能になる事を彼女は全く知らされていない事、他の参加者もその説明に満足している事は空気の読めない私にも良く解って、それ以上質問を続けられなかった。 もやもやした気持ちのまま帰ってから職場の"百科全書"さんに疑問の続きを訪ねた。「だから俺は誘われても行かない」が答えだった。



原発事故が発生してから、間もなくして「東電はね、本当は堤防を高くしたかったんだって、でも地元の人が海が見えなくなるのがさびしい・・・、と言ったので止めたんだって」と身近な人から聞いてギョッとした。本当に良く出来た嘘である。海辺の山を切り崩した土の上に作った原発には、構内どころか、裏山にも入れない。 人家から離れたところにある原発には、一般人はもちろん、地元民でも特別な許可なくしては入れない所である。でも現地や、原発を知らない人が聞いたら、優しい東電はかわいそう、となる。

友人知人が事故現場近くにいる私は、コロナで行けなかった昨年を除

いて、毎年福島を訪れた。最初はテレビでは感じ取れない津波の破壊力の凄まじさ。次の時は近くの松林の中に、林立する海辺の脱衣場の様なラブホテル群を見て、被災した人々の失われた生活の悲しさを見た。それから行く度に道路や堤防は以前に増して丈夫そうに作られ、人影の殆ど見えない大きなビルは増えたが、最初の除染で集められた汚染され土を入れて積み上げたビニール袋の群れは少しも減らない。孤独死や自殺が普通の出来事として何の感情もなく語たられる日常、五度も変更されても、終了するの

は何時なのか確実な事は誰も言えない廃炉の段取り。

それどころか、事故後の原子炉内がどうなっているのか10年経っても未だ見る事さえできない。今年

になってからも汚染水の海洋投棄は始まっていないのにもかかわらず、基準値を超える魚が獲れた海、蝶や立木の奇形が報告された山地、知人は娘さんの破談を「福島から嫁は貰えないと言われて」とそれ以上を語らなかった。

日本中で賠償支払いの分担金が毎月の検針票に記載されることなく上乗せされて電気料金として支払わされている事を知っている人はどのくらいいるのだろうか。21兆円を超えると試算されている事故処理費用を最終的に支払わさせられるのは、現在は私たちでありやがて子供の時代へと引き継がれていく。

これは東京の原美術館が閉館するにあったて催した福島の写真展の言葉を断りもなく引用させてもらったものである。



時間が流れる

廃炉作業は30年後も続いている あるいは40年後も 1年後がどうなっているのかわからないのに 30年後も続いていると疑いなく思えることが 他にどれほどあるだろう

(原美術館での"Semicircle Law"展示の一部)

3月は私にとって重い月である。

3.1ビキニデー、3月10日の東京大空襲で私の義姉が学童疎開から連れ戻された時には、人も家もそして見覚えのある定かな場所も、何も残っていなかった。彼女の親族席には一人もいない結婚式だった。 3.11は地震についても地震考古学者によると想定外では全くなくて、確実に起こるべくして起こった物、一一以前に、二水会の講演で「千年に一度有るか無いかの地震に備えるなどと言う事は・・・」と発言した講演者には、何故そのような言葉を使えるのか、と有識者然とした驕りに怒りを覚えた。

これと並んで民間・軍属・避難や徴用の犠牲者が本当は何人有ったのかさえ判からない沖縄戦が始まったのが3月26日である。 今その時の遺骨を含んだ土が辺野古の埋め立てに使われようとしている。

これ等のすべてが、私が生まれてからの出来事で有り、そしてその全てが解決されないまま今も目の前に有る。私も自分の体調のちょっとしたことに「癌では無いか」と最悪を心配する。しかし少し大きなことになると最悪を予想する事はおろか、科学的な根拠に基ついた、最善の対応は何かと自分の頭で



新たにコロナは、「今、あなたは、どう考え、何をしようとしているのか」と問い続けている。



「即興詩人」と「ゴンドラの唄」を追いかけて

中沢賢治

安野光雅画伯が昨年末にご逝去されたとの報に接し、謹んでご冥福をお祈りいたします。最初の出会いは「絵本 即興詩人」(講談社)でした。文章と物語の絵が一体となっている感じに魅了されました。 「絵本 平家物語」(講談社)、「口語訳 即興詩人」(山川出版社) も好きな本です。昭和が始まる 1926

繪本 即與詩人 安野光雅 年に画伯が生まれた島根県津和野は、幕末の1862年に森鷗外が生まれた土地です。森鷗外によるアンデルセンの小説「即興詩人」(1835年)の文語訳は明治後半の1902年に発刊されています。アンデルセンが自らを投影したと伝えられる若い流浪の詩人アントニオの成長と心の遍歴を描いた物語と、森鷗外の小説「舞姫」は微妙に似ています。話の展開も、結末もまったく異なる二つの物語ですが、主人公が生き方に迷う様子と、恋をして揺れる心の描写がどこか共通しているからです。独語からの文語訳は長い時間をかけて丁寧になされています。画伯は20歳代半ばでこの本に出会ったそうです。初めて異国の土を踏んだデンマークでアンデルセンの記念館を訪れたこと、「即興詩人」の古書を苦労して

入手したことなど強いこだわりが「絵のある自伝」(文春文庫)に記されています。古希を過ぎた2002年に上記の画文集を刊行し、傘寿を過ぎた2010年に口語訳を発表されたことに驚きました。長い時間をかけて愛読書と共に旅をし、共に生きてこられたことに感動します。

画伯は自伝の中で「*吉井勇の「ゴンドラの唄」の元の歌は「即興詩人」の中にある*」と書きました。 「口語訳 即興詩人」のあとがきには「*アントニオがヴェネツィアに向かう船の中で聞いた里謡は、吉井勇の詩となり「ゴンドラの唄」として親しまれています*」と書いています。吉井勇作詞、中山晋平作曲の「ゴンドラの唄」が発表されたのは大正初期の1915年のことでした。帝国劇場で行われた芸術座

の公演で女優松井須磨子が歌って流行したことで知られています。もっとも現在では、黒澤明監督の傑作「生きる」の中で名優志村喬が公園のブランコに乗りながら歌った場面を記憶している人が多いでしょう。

「いのち短し恋せよ少女(おとめ) 朱き唇褪せぬまに 熱き血潮の冷めぬまに 明日の月日のないものを」



画伯は文語訳「即興詩人」の口語訳のために一字一句を吟味したでしょうから、説得力のある指摘です。口語訳にあたっては様々な資料を調べ、文学研究者たちから示唆を受けたことがあとがきに示されています。岩波文庫版で確認してみると、文語訳の原本に「妄想」という変わった題名の一章があります。即興詩人アントニオがアドリア海の港からヴェネツィアに向かう船上で、乗り合わせた少年たちの歌を聴く場面です。「*其歌は人生の短きと恋愛の幸あるとを言えり。ここに大概を意訳せんか*」。

「朱の唇に触れよ、誰か汝の明日猶在るを知らん。恋せよ、汝の心の猶少く、汝の血の猶熱き間に」

中公文庫「吉井勇全歌集」巻末の年譜によれば、この歌人は 16 歳の頃に鷗外訳「即興詩人」を手にしています。この頃森鷗外は 40 歳になったばかりです。文語訳されたヴェネツィアの舟歌は晩年を迎えた老人から若い恋人たちへの静かな呼びかけです。小説の中では、この歌を少年とその仲間たちに歌わせている点が印象的です。格調の高い一番に続いて、二番、三番は率直に誰の目も届かないゴンドラの中で波に揺られるまま、恋の幸せを享受せよという大胆な歌です。小説では、アントニオが歌を意訳した後で「我はこれを聞きて挽歌を聞く思ひをなせり。老は至らんとす。少壮の火は消えなんとす。」という独白を続けます。青年期から熟年期に向かう微妙な年齢にさしかかったアントニオがこれまでのぎこちなく苦しかった恋愛の記憶をたどります。この小説の最も美しい部分です。酒と恋愛について多くの歌を詠んだ浪漫派の歌人吉井勇が共感し「ゴンドラの唄」が生まれたのでしょう。この歌詞の中に

「*君が柔手を我が肩に*」という部分があります。小説では第三者だった呼びかけの主語が、「ゴンドラの唄」では恋の一方の当事者である若者に変わっています。劇的な効果をねらった演出です。

わたしに吉井勇について教えてくれたのは岳父でした。医者との二足の草鞋を履きながら、二条節夫の名で推理小説を書いていた人です。わたしたち夫婦が一時帰国した夕べのことでした。晩酌もすすんで

恋せよ乙女

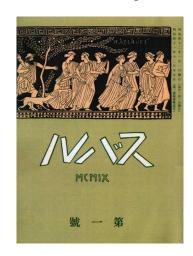
上機嫌の岳父が「東京の秋の夜半にわかれ来ぬ仁丹の灯よさらばさらばと」と諳んじてくれました。「仁丹の灯」というのは大正時代に東京の賑わいを象徴するランドマークだった浅草の仁丹塔のことのようです。岳父が熟読した跡が残る木俣修著「吉井勇研究」(番町書房)によれば、第二歌集「昨日まで」に収められたこの歌は吉井勇が東京から逃れるようにして鎌倉に移り住んだ時に詠んだものです。若い頃から京都好きで、ついのすみかとして鎌倉を選んだ岳父にとってこの歌人はとても気になる人だったようです。他にも岳父の蔵書だった歌集「酒ほがい」(近代文学館)、「定本吉井勇全集第一巻」(番町書房)、「短歌歳時

記」(臼井書房)が今はわが家の本棚にあります。

吉井勇は与謝野寛・晶子夫妻が率いた明星派の短歌グループである新詩社に所属していました。上記の木俣修の研究書によれば、新詩社の分裂騒動の後で、雑誌「明星」を継ぐものとして創刊された「スバル」で森鷗外が顧問格をつとめたことが記されています。この創刊号に森鷗外は一幕物の戯曲、吉井勇は短歌を発表しました。その後に吉井勇も戯曲を発表しています。木俣修によれば「「スバル」には早

く<u>戯曲に手を染めていた先達鷗外がいたから、その刺激や鞭撻をうけて</u> 木下杢太郎や吉井勇がほとんど時を同じくして戯曲を書こうと志した」 ことになります。歌人である吉井勇が舞台に関わり「ゴンドラの唄」を 作詞したこと、その出典と考えられるのが森鷗外訳「即興詩人」だった ことの2点については、この歌人と文豪の間に雑誌「スバル」を通じて の交流があったことも影響したのだろうと想像できます。

もう一人画伯が言及しているのが作家の塩野七生氏です。前述の自伝の中に「ベニスの舟歌は更に遠くルネサンス時代にさかのぼると塩野七生は書いている。」という文章があります。「わが友マキアヴェッリ」(新潮文庫)で確認してみました。第四章「花の都フィレンツェ」の中に吉井勇の「ゴンドラの唄」が登場します。この箇所でフィレンツェの有力者であり文人でもあったメディチ家のロレンツォ作の「バッカスの歌」が吉井勇の「ゴンドラの唄」の元歌だったのではないかという推論



がなされています。塩野さんはロレンツォの詩が、「フィレンツェにとどまらずにヴェネツィアでも大流行していた」点と、「ゴンドラの唄」との類似について「大意ならば、同じではないか。ロレンツォだって、この日本語訳を知れば、感心するのではないか」という点を指摘しています。

「青春とは、なんと美しいものか とはいえ、みるまに過ぎ去ってしまう愉しみたい者は、さあ、すぐに たしかな明日は、ないのだから」

塩野さんは自由に想像されていますが、断定はしていません。「吉井勇がロレンツォの元歌を意訳した」か、「もしくは完全な創作かもしれない」という二段階の推理です。もしも文語訳「即興詩人」に目を通していたならば「完全な創作かもしれない」という推理は無かったはずです。塩野さんは「ゴンドラの唄」との出会いについて「私がはじめて知ったのは、黒沢明監督の「生きる」を観た時だった」と書いています。随筆集「サイレント・マイノリティ」(新潮文庫)にも、戦後の闇市の時代に黒澤監督の「酔いどれ天使」を見て強いショックを受け、熱心なファンになったことが出てきます。塩野さんが「即興詩人」を経由せずに、好きな黒澤映画の挿入歌から直接ロレンツォの「バッカスの歌」にたどり着いた点がすごいところです。

わたしは30歳を過ぎてからヴェネツィアを2度ほど訪れています。アントニオが旅したアドリア海の港アンコーナにも思い出があります。この文章を書いていて、いつか再訪してみたいと思いました。

明日も本番!

正木裕子



声を使うオペラの歌い手にとって、自分の体調を演奏会当日に最良の状態に仕上げるということは何よりも大切な課題です。体が自分の楽器ですから人一倍健康に気をつけてなくてはなりません。時には、運動選手並みの管理も必要です。筆者もソプラノ歌手として日々声の調子を確かめながら、演奏本番に向けて備えています。暑い夏でも首にはスカーフを巻いていたり、少々変わった生活ぶりは周囲の人々を驚かせてしまうこともあります。ビロードのような、なめらかな声で歌うために、ずっと奮闘してきたエピソードを紹介いたします。

本番へ向けた体づくりで私が最も大切にしているのは、食生活です。声楽 を始めた中学生2年生の頃から、「○○は声にいいらしいよ」と聞くと、色々

と試してきました。最初に勧められたのは、お肉を食べることでした。私の故郷熊本では郷土料理として 馬肉が有名です。いよいよ大学受験を控えた頃、地元の声楽の先生の奥様が「精がつくから」と、近所に ある馬肉専門のお肉屋さんを紹介してくださいました。それ以降、セーラー服姿の私は毎回声楽のレッ スンの帰りにその店で馬肉を買って、夕飯に食べていました。今考えると、必死だったのだなと苦笑しま す。以前、東欧製冷凍ラザニアに馬肉が一部混入していて大スキャンダルになった英国では、このような 馬肉食の習慣は大変野蛮に感じられることと思います。

その馬肉の効果があったのか、私は無事に大学に合格し、上京しました。在学中は試験前になると肉を食べないといけないような気がしていました。学生の身分には不相応でしたが、週末にアルバイトをした帰りに、その日にもらったばかりのお給料の大半を費やして銀座のヤマハの近くにあったスエヒロステーキハウスに行ったこともありました。家族連れやカップルが多いこのレストランで20歳そこそこ

の学生が必死になって一人で牛肉を食べていた風景は、はた目にはさぞ奇妙に映った事でしょう。当時は、ルチアーノ・パヴァロッティ、モンセラ・カバリエ、ジェシー・ノーマンなど体格の立派な有名歌手が多く活躍していました。芸大声楽科同期生男女 60 人中、身長が小さい方から二番目だった私は、とにかく大きくなりたいとそればかり望んでいました。

その後、修士を出てすぐにフランスに留学しました。当時の私は、それまで 歌の勉強ばかりで、料理は全くできませんでした。買い物に行ってもヨーロ ッパの見知らぬ食材しかなくて、毎日何をどう食べたらよいのやら途方にく れたことを思い出します。街全体がファッショナブルだった影響を受けたた



めか、毎日カフェでエスプレッソコーヒーを飲み、パン屋さんの美味しいエクレアを食べていました。声に良いとは、お世辞にも言い難い食生活でした。しかし、とりあえず「精がつく」と頭に叩き込まれていた肉を食べていました。それでオーディションの前にはイポポタムというチェーン店のステーキ屋さんに行っていました。そしてそこでも相変わらず必死になって、生肉のタルタルステーキを食べていたのです。

やがてベルギーに移り住むことになりました。人々の生活ぶりは、フランスに比べると質実剛健な印象を受けました。そして肉食文化の奥深さに驚きました。ステーキはとにかく厚切りなのがベルギー流です。石畳の石のような立方体に近い形をしています。近所の肉屋さんでは、早朝7時半の開店時間前から主婦たちが籠をかかえて買い物の行列をしていました。その様子を見て、北国ベルギーの朝の早さを実感し、とにかくこの国の人々は食べることをこの上なく大切にしているのだな、と分かりました。肉屋さんでは、精肉だけでなく、色々なハム、ソーセージ、パテ、燻製肉も売っています。更にミートソース、こぶしほどもある大きさの肉団子、鶏肉のホワイトシチュー、うさぎ肉のビール煮などの出来合いのお惣菜も所狭しと大皿でウインドーに美味しそうに並んでいます。こうして美食の国ベルギーにて三十年を経て、外食だけでなく、私自身で家でも料理する経験が増えたのです。先のエピソードで、それなら声のために肉を多量に食べる日常生活を送っているように想像されるかもしれませんが、そうではありません。現在は肉の他にも、多様な料理に挑戦中です。多国籍な人々が共存しているおかげでブリュッセルでは世界中のスパイス類や新鮮な野菜と果物が年中手に入ります。これはとても幸せなことです。近年ヴェジタリアンも多く、プロテインは植物由来の粉末を溶かして飲む摂取方法もあり、肉の消費量全体

は減っているそうです。とはいえ、連日の演奏会ツアーで長距離の移動が必要な時など普段より体力が 必要な時には、確かに赤身の肉は筋肉の疲労回復を助ける効果があると実感しています。

さて、お肉の他に、果たして声にとって魔法のサプリメントは存在するのでしょうか。やれ、黒飴をな めるのが良い、やれ、陳皮(柑橘類の皮)が良い、やれ、葵(あおい)のお茶を飲むのが良いなどと聞くたび に迷うことなく試して、いわば気持ちの頼りどころにしてきました。もちろん、風邪の予防として、普段 からレモンなどの果物でビタミン C は多めに摂取しています。ビタミン E に関しては、懐かしい想い出 もあります。大学院時代、授業が終わってから、わざわざ学校がある上野から池袋まで、オペラ科の同期 生たちと揃って、鮮やかな緑色のアヴォガドのミルクシェーキを飲みに出かけていました。東口にある デパートの地下にあるフルーツドリンクのスタンドで、当時一杯 200 円でした。美味しい飲み物でした。 思えば、これが私のビタミン E 信仰の始まりかもしれません。美肌のためにビタミン E を含んでいると 謳った化粧品が多くありますが、肌に良いということは、ほぼ共通して喉にも良いらしいです。オリーブ 油、生クリームに始まって、ウナギ、イクラなど私のビタミンEの摂取熱はその後も継続しています。科 学的根拠は不明ですが、ねばねばした山芋やオクラ、納豆も保湿に良いそうなので、日本に帰国したとき には、意識して食べるようにしています。更に、喉ごしのつるっとした食品も気持ちが良いものです。中 華の燕の巣や洋食のゼリー寄せ、和菓子の葛きりなどです。運悪く、風邪をひきそうになった時には、ハ チミツ、甘草、スパイスのタイムなどをお茶にして飲んでいます。ところが、27歳頃のこんなことが起 こりました。ベルギーでとても大切な演奏を控えていた当時、「牡蠣のエキスが良いらしい」と聞き、こ こぞと連日サプリメントを摂取しました。しかしその数か月後、気が付くと牡蠣アレルギー体質になっ ていたのです。何ごとも過ぎたるは及ばざるがごとしを体験しました。いわゆる声に優しい栄養補助サ プリメントや食品は数多くあります。しかしそれらすべてが魔法ではありません。まず、普段の食生活と して、一般にごく当たり前に言われているように、偏食をせず、たとえば、一日に30種類の食品を食べ るなどの方法を心がけて栄養バランスを整えることが声にとっても良いと思います。

住まいや衣服に関してはどうでしょう。九州に生まれ育った私は、北国の気候と生活習慣を全く知らずにベルギーに留学したために沢山の失敗をしました。お恥ずかしいことに、冬に外出するときにコートの前ボタンをきちんと留めたり、手袋や帽子、暖かい靴で防寒することから覚えなくてはなりませんでした。(これは 2020 年 1 月、実家に帰省した際、朝の出勤時間帯に市の目抜き通りで、自分の目で検証したことですが)熊本市では、冬でもコートの前ボタンをあけたままふんわりと羽織るだけで街中を往来している人がなんと約半数もいるのです。そんな土地柄で育ったので、正しい暖房の使い方もわかりません。ブリュッセルに住み始めた最初の年、密閉された学生寮の部屋を暖め過ぎて、空気を乾燥させてしまいました。当然喉がカラカラに乾燥しました。それで乾燥を防ごうと加湿器を使いはじめました。し

かし、乾燥させてはいけないと思うあまり、暖房を切って加湿器のみ使用した ために逆に風邪をひいてしまったのです。今となっては笑い話ですが、当時は 本当に無知でした。また、夏には最近はヨーロッパでも、以前に比べると冷房 を使う機会が増えました。そのためにどんなに暑い日でも、移動するときにス カーフは手放せません。夏でも、喉を冷やさないようにする対策が必要です。

さらに、声のための体調管理には、体を柔らかくすることも重要です。「なーんだ、そんな普通のことか。」と思われるかもしれませんね。しかしそれが難しいのです。今やヨーロッパの音楽高等教育の場では、様々なメソードを用いた



体の使い方の指導が花ざかりです。実は、これは声楽だけはなく、楽器の演奏者にも共通することです。 自分の体を如何に自由に使うかを学ぶ授業です。私がブリュッセル王立音楽院の声楽科で指導をしてい た時に大きな問題と感じたのは、学生たちの姿勢でした。ごく当たり前にまっすぐ立つということがで きない学生が多くいたのです。そして彼らはしばしば、20代であるにもかかわらず、腰痛などを訴えて いました。それもこれも、体が固まっていることが原因だったのです。

そして歌を歌うために、最後にもう一つ大切なことは、うまく気分転換をすることでしょう。こんなこともありました。大学に在学中、あるセミナーでヴォイストレーナーの先生が「初夏の日光を体に浴びて、海風をお腹一杯吸い込むのがいいです」とおっしゃったのです。その教室には、すでにきれいな小麦色の肌になっておられた先輩も同席しておられました。それで私も早速、片道 2 時間半かけて横須賀線で鎌倉まで出かけました。講義が無い 6 月の平日の午前中でした。もちろん海岸には誰もおりません。一人で、腹筋を強くするためにはお腹のあたりを日焼けしなくては、と一心に念じながら砂浜で日光浴をしていました。すると、私を見つけて近所の男の子たちがやってきて、「ミステリアスな人妻だと思ったよ」と話しかけてくれました。しかし、その時にひょっとすると生まれたかもしれない「海辺のロマン

ス?」とは全く程遠い状況だったのです。私の頭は、試験、試験、でガチガチでした。もう少し気持ちの余裕をもって風景を楽しむことが出来ればよかったと、今になって後悔しています。あの時のヴォイス

トレーナーの先生の言葉は、現代においては、日焼けすることよりもむしろタラッソテラピーに近いものと解釈できそうです。心地よい海風や、はだしで歩く砂浜の感触を通して得られるものは、日常生活で得ることのできない解放感でしょう。そういえば、森を散歩したときに感じるあの爽やかさや、美しい花を見たときの心が安らぎなども、いい気分転換だと思います。オーディションや毎回の本番は、お腹が痛くなるほど緊張するものです。しかし、よりよい演奏をするためには、そのストレスを自分でコントロールしなくてはいけません。実は、これが一番難しいことかもしれません。日々、なにかとストレスを感じることも多いですが、そんなときに、身近な自然の四季の移り変わりを五感で感じるだけでも、気分転換が出来るのではないでしょうか。



肉を食べて、ビタミンとって、服装や環境に気をつかって、体を柔らかくして、ストレスをコントロールして…試行錯誤、悪戦苦闘の日々。なかなか面倒なことが多いですがすべては声のため。明日も本番と思うと今日も声のために心と体を大切にしようという気持ちになります。



英国の料理

石山 望

雨である。雨って、嫌いではない。

英国の雨というのは、日本の雨と違って、シトシトと降る。土砂降りということには、ならない。ロンドンでは、まずそうである。それに、庭の木に水をやらなくてもいい。これは実に楽である。木々も、さぞ喜んでいることであろうし、。



こういう時には、私、普通、日記を書く。

今日は何を書こうかな?机の上には、日頃書きたいと思っていることの、一覧表がある。

あっ、「英国の料理」というのはどう?

皆さん、「英国の料理」と聞いて、ピンと来られない、さて何があったかなと首を傾げられるのが普通だと思う。いいところ、Roast Beef (ローストビーフ)と、Fish and Chips (フィッシュア

ンドチップス)くらい。もう少しご存知のお方は、Steak and kidney Pie (ステーキアンドキドニーパイ)。 これは、牛肉と腎臓を煮、パイに包んで、オブンで焼いたもの。

要するに、英国では「食文化」が育たなかったのである。

理由はいろいろあると思うが、数世紀に亘り、英国、植民地を沢山持っていて、外国からの料理がドーッと入ってきたことが一つ。曰く、代表的に、中華料理とインド料理。ここロンドンでは、加えて、日本、スカンジナビア、ロシア、フランス、スペイン、イタリア、中近東の食べ物が味わえる。

しかし、根本的には、英国人、食べることにそれほど頓着がないのではないであろうか、お腹が膨れればいい。また、「食べることについてとやかくいうのは、金のことをとやかくいうくらいに下品だ」と思う

風潮があるのかもしれない。

彼らが金をかけるとすれば、それは、まず「家」にである。衣食住の「住」。要するに「恒久的なもの」 に金を使う。私、この考え方に概ね賛成であって、後の二つは、なんとかなると思う。

しかし、英国に独自の食文化が育たなかったばかりに、これは良いということもある。それは、まあロンドンのような大都市に限ればということであろうが、ここでは、大げさに言えば、実に世界中の料理が食べられるときている。

私、以前、友人たちとスペインのアンダルシアに行ったことがある。セビリアに現地集合、そこからカディス(大西洋)までの小船旅である。クリスマスを船の中で過ごそうというわけ。たまたま、それが、フランスの船であったので、食事はと言えば、3食ともフレンチ。何か、聞こえはいいかもしれないが、とんでもない。最後の方には、クリームのしっかり乗ったフランス料理、見るのも嫌になった。ああ、ラーメンが食べたい、。

また他のある時、これもフランスがらみである。

ドルドーニュ地方という、ラスコーの壁画で有名なところ。何万年か前、クロマニオン人が洞窟に住んでいたという。その洞窟の中に入った時、ヨーロッパ人の先祖は、そんなところに穴居生活をしていたのかと、感無量なものがあった。しかし、そこでの食事が「アヒル」一辺倒。私、アヒル料理は好きであるが、それが毎日となると、ゲーッ。



このように、フランスでは、フランス料理が(世界的に)あまりに大きい存在であるので、他の料理はちょっと、入り込む余地がないように思われる。

その点、イギリスでは、本家のイギリス料理が、全く大きな顔をしておらず、隅っこの方に遠慮がちに鎮座しているので、よく言えば、バランスが取れている。

田舎に行っても、中華料理屋の一軒くらいはあると思う。

因みに、こんなことを聞いたことがる。

フランス料理が、中華料理と並んで、世界に冠たるものとなったのは、フランス革命以降のことなのだそうだ。革命前、王様を始め貴族が一堂に住むベルサイユには、当然のこと、超一流の料理人が揃っていたが、革命により貴族階級が絶滅してしまったため、彼ら、職を失った。それで、仕方なく野に下り、フランスの一般庶民にも、フランスの高級料理(l'haute cuisine)を振る舞うようになった、というのである。料理には素人の私でも、フランス人の「食べること」に対する貪欲さ、熱の入れようには敬服する。彼らは、一般的にイギリス料理の「芸のなさ」、また「単純さ」を軽蔑していると聞いた。カスタード(custard)は、牛乳、鶏卵に砂糖、香味を混ぜて作った甘いソースであるが、これ、フランスでは「la crème anglaise」と呼ぶ。「イギリス風のクリーム」。フランス人が、料理に関して「イギリス風の」というとき、そこには、「単純で、芸のない」という、軽蔑が入っているという。

フランス通のイギリス人から聞いた話である。

マイクさんは北アイルランド人

マイクさん、北アイルランドはベルファストの出身。でも、永らくロンドンに住んでおられる。71歳。

私、彼に会うまでは知らなかったのであるが、北アイルランド人っ

て、なんでもストレートに話されることで有名なんだとか。言葉に虚飾をつけない。駄弁を弄しない。皮肉とか世辞を極端に嫌う。

マイクさん、私と初対面の時、こう言われた。「私のところに遊びにおいでくださいな」。英国人ならば、フツウ、まず言わないことである。私にもそういうところがあるので、面白いことに、彼とはウマが合う。 基本的に「いい人」。まあ、そうでなければ付き合わないけれど、。

しかし、しかし、、

1、冗談めかしてこう言った時

私:「そりゃ、私よりマイクさんの方がお料理、お上手ですよね」(実際、非常に狭い範囲で、簡単な料理なら、まあまあ上手い)

マイク:(5秒ほど真剣に考えた挙句)「イエス!」

???、、、フツウは、コウイウ時、「いえいえ、そんなことはありませんよ。ノズさんの方が遥かに、」トカ何トカ言ウモノナンデスケレド、。

2、私の誕生日に、彼から「竹鶴」という日本の高級ウイスキーをもらった時 私:「まあ、こんな高級なもの、私には、勿体なすぎます。どうぞ、お持ち帰りください」 マイク:「ああ、そうですか」



???、、、フツウは、コウイウ時、「いえいえ、そんなことおっしゃらずに。 まあま、どうぞお納めくださいましな」トカ何トカ言ウモノナンデスケレド、。 そのウイスキー、本当の所、とても欲しかったのです。

3、マイクさんが、私の所に来られた時、手土産をもらって、

私:「いつも、いつもお土産をもらってばかりで、。手ぶらでお越しくださいと、 言っているでしょう」

マイク:「あ、そ」

???、、、フツウは、コウイウ時、「まあそう仰らずに、大したものではありませんので、どうぞ、どうぞ」トカ何トカ言ウモノナンデスケレド、。

4、マイクさんが、映画観に行こうと言われた時、

私;「"Emma" はどう?」

マイク:「僕、そういう時代ものは好まない」

私:「じゃ、一人で行くしかないね」

マイク:「うん、そうして、」

???、、、フツウは、コウイウ時、「自分の好きなタイプの映画じゃないけれど、君が一人で映画館に行くって、考えるだけでも忍びないから、喜んで行くわ」トカ何トカ言ウモノナンデスケレド、。

マイクさんと喋っていると、とても楽しい。何も考えなくていいから、ウマが合うとはこういうことなんだとは思う。しかし、私が言ったことは、フツウの社交辞令である。

ことに私は、京都にいた時、いつも、こんなことを言って楽しんでいたのである。この時、別に、本心を さらけ出していないからと言って、不誠実であるということにはならなかった。

皮肉というのは、私も嫌いであるが、言われたことの本当の意味はどうなのかと探すのは、結構楽しかった。ただし、それには、相手の人と、基本的に「ウマが合っている」という前提が必要である。そうでないと、単なる時間の無駄、皮肉や嫌味ばかり言い合って、ということになる。

マイクさんと話していると、時間はすぐにすぎて行く。完全に直球ばかりの会話で、遠回しな言い方など、まずない。でも、そこには、決定的に隠喩とか比喩とかが欠如しているから、ちょっと「大人の会話」という感じはしない。そして、上質な「大人の会話」の持つ微妙な「機微」が伺われない。

こういうのを小説にしても、誰も読んでくださらないであろう。

彼との付き合いには「フツウの」という部分が、大いに欠落している、と思う。

私、彼と一緒に、一昨年ベルファストに行った。

観察 (Observation)

須永 静江

1 形と動き (shape & movement)

私は 1974年の 7月にイギリスに来て 2020年の春までの間に、灰色鷺(grey heron)を 3、4回見掛けている。少ない回数なので、どこで見掛けたかをハッキリと覚えている。最初は、ロンドンの西部 Uxbridge の田圃の中にポツンと立ったままの姿で。私たちは grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って散歩をしていた。「あれは、grey heron に沿って大きないでしょ!」「本物だよ。賭けをしようか?」と言うことで、結果は、grey heron にここでは、たくさんの人が行き来するにもかかわらず、grey heron にここでは、たくさんの人が行き来するにもかかわらず、grey heron にいる姿である。grey heron の海辺近くに住む、友だちの家の裏庭の池で。そして、grey heron はいつも、いつも一羽であった。

私は、日本の関東平野のまん真ん中に、もう少し正確に言うと、真ん中よりは少しだけ西北寄りの村に生まれ育った。真っ平らな畑と田んぼに囲まれた村からは、遠くまで広がる平地の向こうに、西に浅間山、北に日光連山、東に筑波山がぽっつり一つ、そして、さえぎるものもなく遥か遠く南に日本一高い富士山が見えた。村のほとんどの家が農業を営んでいた。そして、我が家も農家であった。小さい時から自然に囲まれて育って来た私であるが、自然は場所によって大きく違うものである。この生まれ故郷で、私はよく白鷺(しらさぎ=little egret)を見かけたが、灰色鷺は見たことがなかった。「白鷺は、畔(くろ)を壊して困る」と、農家の人たちはボヤいていた。畔が壊されれば、稲田に張った水は流れ落ちて、稲は枯れてしまうからである。



餌を待つグレイヘロン

私は、ロンドン Barnet 地区の Dollis Valley Greenwalk に流れる小川で、2020年の春から秋にかけて、grey heron を数回見た。これまでとは違って、遠くから見掛けると言うのではなく、かなり近い距離でつぶさに観察したり、私の方から話しかけたり出来る距離であった。

早朝の散歩は、最初「日の出と共に」を目標としていたけれど、実際は、日の出の 45 分くらい前から次 第に外は明るくなって来ることが分かって、私の出掛ける時間も早くなっていった。理由は、朝早い方が 生き物の活動が活発なことが分かったからである。 鷺も夜明け前に餌場に来て、餌の出現を待っている のである。

私の散歩する小川には、grey heron と little egret が来る。(オレンジ色の温かな色の羽の cattle egret も見たように思うが、勘違いかも知れない) 1番多く見るのは grey heron である。grey heron も 「あれは、老い鳥」「あれは、成熟鳥」「あれは、若どり」と言う風に、差があるように見える。さらに季節によっても、体が周りの自然の色に調和するようになるようだ。戸外の明かりが十分ではないと感じられる時もあったが、老い鳥は、からだ全体が錆びた鋼(ハガネ)を思わせるような硬い灰色に見えた。大きな翼を広げて、私を直視するがごときに真ん前から首を曲げたまま低空飛行で飛んできた時の顔も、錆びた鋼色で何故かおじいさんの顔を思わせた。同じ灰色でも、全体が温かみのある灰色の鷺は若鳥だと思う。顔つきにも厳つさがなく、人を警戒する様子も余りないので、私は静かに話しかけたりもした。

鷺は、脚が細長く、首も細っそりと長く、胴体はお尻に当たるあたりがふんわりと丸く、頭は小さく嘴はちょっと長めだが、総じて美しい姿の鳥だと思う。

Dollis Valley Greenwalk に来る grey heron は、小川の流れの中に2本の脚を浸けてジッと立っていることが多かった。そうしている時に、ジョッギングをしている私が通りかかる、と言うタイミングであった。小川の三ヶ所くらいが鷺の選んだエサ場であった。何を餌として狙っているのか? 小魚かも知れない。私は一度、近所の黒猫が、小さな平らな魚をくわえて逃げて行くのを目撃していた。念のため昼間に行って川を観察すると、川の表面にアメンボの姿が見えたが魚の居る様子は窺えなかった。ある雨上がりの午後のこと。白い大きな犬を散歩させているおじいさんに出会った。その犬は、バシャバシャと水飛

沫を上げて小川に飛び込み、向こう岸の裾で派手に遊んでいる様子であった。'You've got a beautiful dog,' と私が言うと、おじいさんは、'It's a Golden Retriever, -- although it is white. He loves water. There are rats around there,' と言った。とすると、grey heron の餌には、ネズミも含まれているのかも知れない、と私は思った。

いつもは、私が立ち止まって heron の様子を観察していると、heron はしばらく生きた餌の現れるのを待ちながらも、「さて、どうしたらあそこに立っている人間から無事に逃げられるか」を考えている様子であった。そして、いずれ餌は諦めて、飛び立ち、飛び去って行くのであった。灰色鷺は大きな鳥で、両翼を広げて飛んで来たり、飛び去ったりする時、しばしば人が散歩する広めの小道に沿って飛ぶことがある。枝の込んだ森や林の中では、翼を広げて飛ぶだけの十分な空間がないからである。



餌となる生きたアヒルの子

ある時、ジッと立って動かない私との根(こん)比べに見切りをつけたのか、鷺は、私を気にしないことに決めたらしく、曲がりくねった小川の中を静かに動き出した。左から右斜めに川を横切りながら、私から次第に遠のいて行く方向に。と!何やら、目に付いたらしい。おもむろに首を伸ばし、頭を傾げて、更に長く首を伸ばし、嘴(くちばし)を1発焦点に当てた。ミスしたか?餌は望むエサではなかったのか?首を慌しく左右に振り首回りの水を振るい落とすと、何事もなかったかのように再び首を縮め、すんなりとした美しい真っ直ぐの姿勢に立ち直った。

しかし、その時に見た grey heron の首の動きは、私には異様であった。長い首は曲がって蛇のようにくねった。魚も、ネズミも、蛙も、蛇のように丸呑みするのだろう。長い首が生きたままの動物を飲み込んだ時のふくらみを想像したら、更に気味悪くなった。

考えるに、鷺は carnivores (肉食動物)なのである。庭に来る可愛い robins や tits は、木の虫や地中の虫を食べると同時に、木の実や種を食べるので omnivores (雑食動物) と言われる。私も omnivorous である。身近な鳥の中では鳩 のみが herbivores (菜食動物)であるようだ。

いつも一羽で、限られた自然の中で、生きた食べ物が現れるのをジッと待っている灰色鷺の姿は、私には現代離れした存在に見えた。地球の歴史は約46億年と言われている。この歴史上のいつ頃に現れ、我々の生活する現代にまで生き残っているのだろう? 私は、灰色鷺との出会いをきっかけに Paleontology (古生物学)に興味を持つようになった。



空飛ぶグレイヘロン

2 音と動き(sound & movement)

木と木の擦れる音がする。「今日は、谷間の向こう岸で」そして翌日は、「今日は、谷間のこちら側の、遠く離れた森の外(はず)れの方で」私は、数日そう思って何の不思議も感じなかった。

ところがある朝、風も無く、静かな森であるはずなのに、「木と木が擦れ合う音がする」「おかしいなー?木も枝も少しも動いていないではないか?」私はジッと佇んでその音に聞き入った。擦れ(rubbing)て軋(きし)む音ではなかった。「タタタタタタッ!静寂!」また、「タタタタタタッ!静寂!」シーンとした森の外(はず)れから外れまで、そして、川向こうの林からこちらの林の外れまで、何と良く響くことか!! まさに、森の音楽隊の名打楽器奏者である。「啄木鳥(キツツキ)かも知れない?姿は見えないけれど」と、思いながら、私は、自分の頭の回転の遅さに苦笑してしまった。

黒と白と赤の小さなキツツキが、以前持っていた Harrow の家の庭に一度だけ来たことがある。だいぶ前の 11 月の寒い時期に、古いラバーナム(laburnum)と言う木の幹に止まった姿を覚えている。ロンドン郊外には、キツツキは結構身近にいるのである。

それから私は Dollis Valley Greenwalk の毎朝の散歩中、キツツキの姿を見届けることに懸命になった。 どの木に止まるのか?小川のこちら側、近くの木立ちの端の一本の木に。更に、遠く離れた木立ちの中の 一本の木に。そして、それと向かい合った対岸の、木立ちの中のどの木かに。おおよそ決まった木に止ま

るようである。



木の幹に垂直に止まるキツツキ

しかし、小さな鳥が心当たりの木に飛んで行って止まる姿を見るのではあるが、鳥は最初に止まった場所に留まっていない。止まるとすぐさま、木のさらに上の方にスルスルと素早く登って行ってしまう。リスよりも速い。高い所に、小さな穴がいくつかあるが、それらの穴からキツツキが出入りする様子は見えない。それらの穴よりもっと高い所に登って行ってしまうので、近視メガネをかけた私にはどうしても見えない。そして次の瞬間に、キツツキがパッと飛び去る姿を見るのである。

キツツキは木の幹に垂直に止まって垂直に登る事が出来る。普段よく見る鳩やコマドリは木の幹にはとまらない。彼らは木の横枝に止まり、下枝から上枝へ飛び上がって移動する。どこが違うのだろう?

キツツキの脚は短く太い。足の指 (足趾)の4本は、第1趾と第4趾が後向きに、第2趾と第3趾が前向きに開く仕組み(Zygodactyl)になっている。どの指の先にも、鎌の刃形の鋭く尖った爪が付いている。丸い木の幹に止まる時は、4つの足趾と尾羽の硬中心をシッカリと幹に押さえて体を安定させる。この姿勢で、幹に垂直に止まって木を突ついたり、垂直に登ったりすることが出来る。



足趾4本の開き方

鳩やコマドリのように枝にとまる鳥の足趾は、第1趾のみが後向きに、第2第3第4趾が前向きに開く仕組み(Anisodactyl)になっている。枝に止まる時には、この4趾が、ちょうど私たちの手の親指が人差し指・中指・くすり指と向かい合って輪を作るように、丸い形になって枝をしっかりと掴むのである。キツツキは何故あのように嘴(くちばし)で木の幹を叩くのであろう?

1つには、木の幹を叩いて、木皮の下に潜んでいる虫を表面に誘き出す目的が考えられる。もう1つは、自分の居場所を明らかにする事で、縄張り(territory)の誇示とパートナーとのコミュニケーションを取る目的が考えられる。キツツキは他の小鳥たちのように、仲間同士で知らせ合う歌を持ち合わせていない。木を突つく(drumming) だけが、互いの交流の手段なので、雌雄共に、懸命に drumming して、発信し、受信する。私が聞いた「タタタタタタッ」の音は、巣作りなどのための「穴掘り」とは目的が違うよう



だ。穴掘り(digging)音は、音と音との間隔がもっと長いはずである。縄張り誇示とコミュニケーションのための音であった。

キツツキはどのようにして、森や谷間の隅々にまで響き渡る、あの素晴らしい打楽器 (drumming)音を作り出す事が出来るのだろう?

頑丈で長めの嘴(くちばし)で1秒間に平均20回、1日に1万2千回も打つ事が出来る、と言う。そして、1回木を打つ時の力は、人間であれば脳震とうを起こす力の14倍だそうだ。

赤線のように頭蓋骨を囲み、クッションの働きをする長い舌

キツツキの脳に当る衝撃を、人間の車の事故や飛行機事故で起こる、人の脳への衝撃と比較した研究が 沢山ある。科学者・技術者は、キツツキが嘴で木を打つ時の衝撃で、脳震とうを起こすこともなく、眼球 が飛び出すこともない事実の秘密を知りたいと思ったからである。そして、それらの研究をもとにして、 強い衝撃に耐えられる防御用ヘルメットや、flight recorder の開発が進められて来た。

キツツキは、化石の研究から、地球上に 2 千 5 百万年もの長きに渡り生き続けて来たことが分かっている。この長い歴史の中で、さまざまな進化を遂げ、現在に至っている。私たち人類は、彼らよりずっと遅く地球に現れた。ネアンデルタール人とデニソヴァン人が私たち(日本人)の祖先のようであり、この人たちは 20 万年ほど前に地球に広がって住んでいたようである。私たちの地球。貴重な自然を守り、地上のさまざまな生物との平和共存が末長く続くよう努力して行きたい。

英国春秋俳壇

エリオットつや子

霜の色

冷えびえと地に伏したるや霜の色 室の花濃いも淡きも美しく ネギ刻む手の冷たさや小雨あり 童らの氷ふみふみ 3-4 人 老猫も秘めたる恋かしのび足

花八つ手おのれ知りてか花の色春めくや手紙2通を書き終わり松が枝の匂いたちにし春の雨見ゆるものみな新しくやよい空いち早く柳芽をふく水の端



英国春秋歌壇

バロー典子

3輪の花

去 権 えし か細く若き 桜木の つぼみの中に 3 輪の花

枯れ落ち葉 持ち上げ見れば ハリネズミ "冬眠中" と 落葉戻しき

雪降りて 小鳥のしげく 飛び来たる 吊りエサ籠に 見とれてやまず

草も葉も 縁取り白く ひとつづつ 輝く霜の 朝のひととき

丘に立つ 樹々の小枝を 照らし出し 赤い冬陽が 沈みてゆきぬ

冬の空 裸の大樹 そのままに 太筆描きの 水墨の絵

霜の朝 芝生を踏めば サクサクと -歩-歩の 音の好まし

朝霧の 消えて現る 寒桜 心の霧も 晴れて見ており

春来なば 地に伏す竹の 折れもせず 雪振りて立つ 姿 清しき

春来たり 日脚の延びし 庭にいで 背筋を伸ばし 春に "サンキュー!"

映画制作に情熱を注ぎ込む今日

渡邊道英

世の東西を問わず、芸術の成り立ちには、作品そのものを仕上げる人(作家)それを見る人(芸術を愛する大衆)、専門的に評価し世の中にアプローチする人(評論家)時間を要するがその作品を学問的に研究



する人などサークルが築かれていきます。こと映画(映像作品・TV も含む)の世界では、音楽、絵画、彫刻、そして演劇、詩歌、小説といったジャンルの中で新しい創造の世界として、第七番目に生まれた芸術とされています。しかも科学的な要素が一杯の芸術です。エジソンが発明した撮影機、スクリーンに投影する映写機の発明無くしては誕生できなかったジャンルです。映画フィルムの開発も然り、サイレントでしかなかった画像に音声を加えた、いわゆるトーキー映画が完成したのがパリで生まれた『パリの空の下セーヌは流る』(名匠ルネクレール監督作品)が上映された1927年でした。今年で94年目です。あの世界的に有名な『戦艦ポチョムキン』を監督した「セルゲイ・ミハイルヴィッチ・エイゼンステイン」(S・M・Eizenstyin ロシア人)が製作し、この映画で「モンタージュ論」を確立したのが、1925年。兎も角映画の誕生からせいぜい100年しか経過していません。

これからの芸術と言って良いでしょう。それだけにポテンシャルの大きい、可能性の高いジャンルなのです。

◆最近の世界の映画業界を覗いて

最近の世界の映画業界を覗いていますと、日本の活躍も見事です。英国、フランス、イタリアなど先進国に迫っているのが、インド、中国、インドネシア、タイなど東南アジアの国々、そして中近東のイスラエル、イラン、サウジアラビア、トルコなどなど目覚ましい発展を遂げているようです。さらにはアフリカ諸国の映像感覚は素晴らしい。昔々の 1960年代、私たちが、各大学の文化サークルの中に『映画研究会』を結成、8ミリ映画、16ミリ映画を活用してのドキュメンタリー映画の制作、映画鑑賞運動をしたのが懐かしい。あれからすでに 50~60年が経過しています。丁度「東京オリンピック」の前後数年でした。日米安保闘争に始まり、日本国による国際空港建設の土地買い上げ問題(三里塚闘争、砂川闘争)での反対運動など、ストライキを記録した映画運動が盛んでした。

◆ベネチュア映画祭でグランプリを獲得

私が大学を卒業したのは1965年3月でした。卒業式に出席し京都の右京区太秦にあった、当時邦画五社(松竹、大映、東宝、東映、日活)のトップの存在にあった「大映京都撮影所」の製作部監督室助監督としてスタートしたのは4月1日であった。他の俳優部やスタッフの新入社員と共に出席したのが入社式でした。黒澤明監督の『羅生門』衣笠貞之助監督の『地獄門』さらには大御所溝口健二監督の『山椒大夫』『雨月物語』『西鶴一代女』など世界の映画祭(ベネチュア映画祭、カンヌ映画祭など)でグランプリを獲得した作品を撮った撮影所として有名でした。長谷川一夫、京マチコ、山本富士子さんが舞台俳優として活躍、映画俳優はすっかり若返っていました。当時は「市川雷蔵」「勝新太郎」「若尾文子」「田宮二郎」「菅原謙次」など擁し、且つ東宝争議より、新劇や宝塚、松竹歌劇から人材が集まり豊富な新しい役者が沢山排出し、人気俳優も活躍して隔週二本立て興行のための作品作りも華やかで、観光バスが撮影所内から消えたことがありませんでした。



◆ROYAL の結婚式パレード

折から皇太子(平成天皇)殿下と美智子妃殿下の結婚式のあった昭和33年(1958)を境に TV 時代の到来となって、映画人口がどんどん減少。各映画会社は TV 会社に投資、新聞社などと組んでテレビ会社の経営に参画。

例えば日本 TV には読売新聞と松竹。TBS には毎日新聞、朝日新聞と東宝。フジ TV には産経新聞と大

映、NET (現在の TV 朝日) には朝日新聞と東映、12chTV には日経新聞には日活ほかが投資し、NHK は国家が株式の大半を取得して運営、ただしコマーシャル料金は取らないことになった。こんなことから映画各社は会社の合理化を推し進め、メインスタッフや映画俳優は契約制度に切り替えました。私たち労働組合は「映画演劇総労働組合」は共産党、社会党メインとなって、各映画会社の労働組合はじめ演劇関係(文学座、俳優座、民藝、新国劇など)の組合が大同団結して「日本映画演劇総労働組合」を結成、各々の労働組合が一つになって、各映画会社の経営者と対峙して権利を強調した時代でもありました。

◆大映労働組合の中央執行委員長選ばれて



そういう私も 25 歳の時に京都撮影所支部の支部長に推挙され、全組合員の投票により大映労働組合の中央執行委員長に選ばれてしまいました。まるまる 1 年間は専従のように各会合に出席せざるを得ず、京都ばかりか東京に出かけることが多く、助監督の仕事が出来なくなってしまいました。

大映労組の委員長時代、東京は京橋にあった大映株式会社の本社に何度も出かけ、あのワンマン社長『永田雅一』氏と団交をしてきました。激しい交渉を続けました。

私の一番の功績は入社した年の一年前に東京本社三役と大映京都撮 影所支部三役(執行委員長と副委員長及び書記長)が解雇されて、裁判沙汰になっていました。東京地裁

影所文部二役(執行委員長と副委員長及い書記長)が解雇されて、裁判沙汰になっていました。東京地及び中央労働委員会には毎回出席して不当解雇撤回の主張を続けました。

お陰様で全ての提出案件に勝利し不当解雇されていた先輩たちを職場復帰させる事ができました。全くのど素人が組合のトップに立ってオーバーに言えば、1500人の社員と家族を救ったと言う事になり、今だに感謝されています。

しかしながら時の流れには逆らえず、会社そのものが倒産(日活も一緒)し、徳間康快氏のお陰で吸収合併が成立新たな映画会社『徳間大映』ができました。中国との合作映画『敦煌』は見事でした。勿論全ての社員が異動できた訳ではなく、契約者であった監督はじめカメラマン、録音、照明、大道具、小道具のメインスタッフの皆さんは「映像京都株式会社」を結成。映画製作を継続しました。優秀な映画と TV 各社のヒット作品を生み出しました。

『眠り狂四郎』『座頭市』『子連れ狼』『殺し屋シリーズ』『木枯し紋次郎』『ザ・ガードマン』『大江戸捜査網』などほとんどの会社員は TV 映画の制作に立ち向かいました。

幸い私は新聞全面広告を見て、富士フィルムの採用試験に臨み、誠に幸いにも、一発で合格。一度映画のことは忘れ新しい家族を持ったこともあって、全く世界の違う写真業界のマーケティングの道に邁進しました。



富士フィルムの経営者は最初から東京デズニーランドの開業(三井系列の三井物産が中心にスタートし

た施設) に合わせた事業を準備していたようで、ウオルトデイズニーの制作したデイズニー映画のビデオ版を全国のカメラ店で販売する計画で、私



が映画界から応募したことに期待していたようでした。そんな私も待ってましたとばかり『白雪姫』『ピノキオ』『ファンタジア』『ダンボ』『バンビ』『シンデレラ』『ピーターパン』『眠れる森の美女』『101 匹わんちやん』『ライオンキング』の10本の販売セットを組み完売しました。懐かしい思い出です。



◆夢にしてきた映画制作に情熱を燃やして

その後ディズニーのパテントを買って、「写真アルバム』(ディズニーのキャラクターが印刷されたもの)を開発、中津川のアルバムメーカーに製造を要請。大量生産を図りました。いまだに語り草になっていますが、短期間に写真用品の売り上げを30億円から100億円に押上げ会社から表彰されました。予想外に物作りと販売が面白くなって20数年間も富士フィルムに長居してしまい、映画作りから遠ざかってしまいました。51歳の時にサラリーマンを辞めシナリオの執筆などから映画製作に焦点を当てて来ましたが、その間に先妻が難病「筋萎縮性側索硬化症」に侵され、人生がすっかり狂ってしまいました。折から息子も大学を卒業、一流企業に入り一



安心。そんな時ロンドンにハイスクールのクラスメートであった現在の妻信子が住んでいることを知り、 ぶらっとロンドンに来て、新たに生きる活力が芽生えて来ました。そして今日を迎えています。夢にして きた映画製作に情熱を燃やして余生を過ごしたいと神仏に祈念している昨今です。

『衣裳をつけるとき』鈴木順太郎記

この記事を書かれたのは今はなき、富士写真フィルム時代の尊敬する先輩の話です。

鈴木先輩はヨーロッパはドイツの「デュツセルドルフの工場長」を歴任され、数年ぶりに感材部長という重席に着かれていました。このポジションは次期富士写真フィルム株式会社の社長就任も目前でした。ところが株主総会を目前にしていた矢先、自宅近くで暴漢に襲われ一命を奪われてしまいました。NHK 初め民間 TV が一斉に取り上げ大変な事態を体験しました。富士フィルムは政治家や政治団体に献金するようなことはありませんでした。そんな事に恨みを込めて暗殺されたとのことでした。本当に素晴らしい紳士でした。エッセイは得意で多忙なサラリーマン時代の別世界で文学など文化全般にわたって表現され、造詣の深い人物であったことが思い出されます。

記

私たちが仕事をする職場と、芝居あるいは演劇を演じている舞台とはあらゆる意味で似ています。つまり、私たちは与えられた役割をアンサンブル(チームワーク)の中で演じる俳優であり私たちの職場は舞台です。優れた舞台俳優や演出者の体験や後輩指導の教えは、職場で仕事をする私たちに対しても、この上ない指標となることは当然です。

モスクワ芸術劇場の、ある優れた演出者が書いた「劇場と俳優の倫理」という小冊子を私はいつも手元に置いておりますが、この小冊子の中から、一つの感動的な挿話を要約してご紹介しましょう。

それは『ある有名な俳優が、彼が劇場に着て来る自前の背広で役を演じることになったとき、彼は楽屋に入るとすぐにそれを脱ぎ、一度衣紋掛けにかけた後に、着直して舞台へ上がった』という挿話です。 『この瞬間を、俳優が単に着物を着たと考えてはいけない。この瞬間、彼は衣裳をつけたのである。この瞬間は心理的に非常に重大である』と、小冊子の著書も書いています。

私は、職場における私たちもまさにこうあらねばならぬものだ、と思います。前述のように職場という ものはそれぞれが与えられた役割をチームワークの中で行い、意図された成果を上げなければならぬ場 ですから、全員がその心構えで職場に入らねばなりません。

職場で役割(仕事)に徹しきる。そのための日常生活や小市民的感情(例えば、悪口、策謀、風評、中傷、嫉妬、つまらぬ利己主義ーーーとその小冊子の著者は注釈しています)から自らを厳しく切り離す重大な瞬間を、職場に入る毎朝、誰もが持たねばなりません。

日本がアメリカから学び産業界に導入した「QC活動」の富士写真グループ全国大会での主賓挨拶でも、 上記のような内容を強調されました。英国などと相違するのは第二次世界大戦の反省に立って、輸入の みに頼らない自国の生産を主体とした工業立国を目指した頃の目標でした。

品質第一主義の工場生産が生まれた経団連の成功事例でした。マーケティング部時代の 20 代最後の私 が活躍した懐かしい思い出です。

IT 万事屋の COVID-19 奮闘記

山本 学

シティでの自主隔離生活

欧州へ進出している日系企業向けに、IT 万事屋サービスを提供すること生業としいる私は、1年前まで3 か月に一度はイギリスと日本を往復、月に二、三度は欧州出張、そしてロンドンに居るときは、なんだかんだと理由をつけては毎晩会食という日々を過ごしていた。その当たり前で雑多な日常は、今は遥か遠い彼方の思い出話となってしまった。。。

最後に羽田国際ターミナルの到着ゲートを通り抜けたのは、2020年2月21日。そこから3月3日まで日本へ滞在した。当時ロンドンはまだまだ平穏(無防備)で、東京で発生したクルーズ船内のCOVID-19集団感染に関して、連日BBCで報道されている状況だった。家族からは、今年は娘のGCESがあるので万が一でも家族に感染者が出ると大変ことになるので、東京出張は控えてほしいと強く言われていたのだが、私自身もまた無知、無防備、さらには元来の楽天的な性格もあり、家族の心配をよそに東京出張に行くことにしたのだった。家族から出された条件は、"ロンドンへ戻ってきたら申し訳ないけど2週間自主隔離してや"とのこと。さっそくairbnb で自宅近くの宿を確保したと伝えると"いやいや、なんでわざわざ自宅の近くなん?会社の近くがいいんちゃうん?"と、真っ当なフィードバックを頂戴し、オフィスがあるシティのMansion House Station近くのサービスアパートメントを2週間予約し東京出張へと向かった。

さて、そのころの東京の様子は?というと COVID-19 に対する警戒感は高まりつつあったのだが、ラッシュ時間帯の地下鉄に乗ろうとすると、車内でマスクをしている人があまりにも少なく(マスク不足という背景もあったのだろう)、ロンドンから訪れた私はちょっと怖くなり、地上に引き返してタクシーを利用してしまった。さらにマスクをしていれば、"安全なんです!"と言った暗黙の雰囲気が漂っており、駅のプラットフォームを恐々と歩いていても、マスクをした人が勢いよく、私の肩すれすれにすれ違っていくことには閉口した。東京出張の主たる仕事はお客様との会食なわけで、レストランでの会食に関しては自粛傾向にあったものの、ロンドンから出張しているということで皆様お気遣いくださり、幸いすべてのアポイントメントを無事に消化することができた。会食後の別れ際のご挨拶では"まあ、9月ごろには落ち着きますかね。年末にはまた日本へ出張できるかと思いますので、忘年会でもやりましょう。"と決まり文句のように締めくくっていたのだが、今思えばあまりにも楽観していたのだなぁと、恥ずかしくなる次第である。

3月4日、ロンドンへ戻る。ヒースロー空港からそのまま前述のサービスアパートメントへ直行しチェックイン、人生初めての自主隔離生活というのが始まった。チェックイン時に受付のお兄さんに "商売はどうですか?" と尋ねたところ "COVID-19 の影響でキャンセルが相次いでるので、ほぼ全室開いてるよ。広めの部屋にアップグレードしときましたよ"とのこと、2週間ロンドンを留守にしている間にムードは随分と変わっていた。"日本出張から帰国して自主隔離なんです"とはつい言えず、"自宅の改装があってしばらくお世話になります"と、大きな荷物をもってバレバレの嘘をついてしまった。近くのスーパーに買い出しに出掛けたが、Sanitiser類は棚から姿を消していた。出張前に妻が有り余るほど Sanitiserを持たせてくれたことに、あらためて感謝した。自主隔離生活を見込んで日本のセブンイレブンでレトルト食品を買い込んでおいたことは大正解で、その中でも"金の直火焼ハンバーグ"と"金のビーフシチュー"は絶品であった。



翌日から在宅勤務ならぬ在サービスアパートメント勤務を始める。 リビング備え付けの TV で BBC News をかけ流しにしながら、出張用 のラップトップ PC で業務を開始した。(BBC New をこれだけ長い時間見続けたのは人生で初めての経験となった)しかし、私のオフィ スのデスクに大型のモニターが 2 台鎮座しているのと比べるとラ ップトップ PC の画面が小さくどうにも仕事が捗らない。同僚に相 談してみると "モバイルモニターを使うと便利ですよ"とアドバイ スをくれた。そんな便利なものがあるんだ!早速ラップトップ PC に最適なモバイルモニターを Google してみると、ラップトップ P Cの画面部分だけを抜き出したような製品(タブレット PC みたい

なもの写真左)が沢山あるじゃないですか!製品評価をじっくり比較検討し、白羽の矢を立てた15イン

チ、フルHD、パワーアダプタ不要という製品(ASUS MB16AC ZenScreen 15.6 Inch USB Type-C Portable Monitor)を Amazon でポチッとクリック。翌日には配送された。〆て 250 ポンド也。丁度、年度末で会計監査と人事評定があり、細かな Excel シートを使うケースが多く、2 画面にすることで仕事の効率は各段に上がった。ちなみにこの新しモバイルモニターはニュースやドラマをかけ流ししながらの、ながら仕事に最適であることも判明し、在宅勤務に移ってからも必須アイテムとなっている。

自主隔離期間中は通勤もなく、食料調達以外は外出することがなかったので、運動不足解消と Pokémon GO のレベルアップを兼ね毎朝テムズ川沿いを散歩することが自然と日課となった。朝の凛と引き締まった空気を体いっぱいに浴びながらテムズ川の畔を歩くのはとても心地よく、はじめは Blackfriars あたりを往復していたのだが、徐々に Waterloo や Westminster の Big Ben まで足を延ばすようになった。Big Ben までの往復は約 2 時間で 10km ほどの距離になる。ある朝 New Scotland Yard の近くをマスクをして歩いていると警察官から職務質問を受ける羽目になってしまった。(当時はマスクして歩いていこと自体が怪しいという状況) "東京へ出張していたので、念のために自主的に会社の近くのサービスアパートメントで隔離生活を行ってます"と説明すると、心なしか後ずさりしながら"Take Care"と言い残し、そそくさと立ち去っていった。翌日も同じ警察官達に遭遇したが、遠くから"Good Morning"と声を掛け

合うだけで終わった。(今でいうソーシャルディスタンスか?)なんだかバイ菌扱いされているようだったが、それ以降は逆に大手を振って快適な朝の散歩ができるようになった。ロンドンでも日に日に状況は悪化していったが、ロックダウンには至っておらず、今と比べると危機感も低かった。週末はこっそりゴルフへ出かけ、夜もこっそり近くのPUBやWaterlooにあるOkan(本場大阪仕込みのお好み焼き屋さん。オーナは東大阪市出身の方)に、よくお世話になった。結果的には充実した2週間の自主隔離生活を過ごすことができた。3月17日に無事最終日を迎えた。しかし、その6日後の3月23日夜に最初のロンドンのロックダウンがやって来た。



最初のロックダウン

ロックダウン初日、オフィス巡回を兼ねて車で出社することにした。さすがに人通りも車の数も少なく30分足らずでシティへ到着した。あっ!どこに駐車しよう。普段 Tube 通勤しているので直ぐには思いつかなかったが、週末作業などで利用したことのあった、NCP が Upper Thames にがあることを思い出した。車を寄せていくと入り口のゲートが上がったままになっていた(?)。チケットの発券機に "Free



parking for all key frontline and healthcare workers until further notice" と粋な手作りのメッセージが貼ってあった。私はこういった英国文化というのがとても好きである。" NCPさん、あんたなかなかええ奴やな。ほな、ありがたく利用させもらいますわっ!"と一人車の中で盛り上がってしまった。この素晴らしいサービスは最初のロックダウンが終了するまで継続された。感謝感謝である。

ロックダウン二日目からはシティでの自主隔離中に身に着けた朝の散歩を、自宅周辺で継続してみようとささやかな決意をした。朝6時に起きて自宅周辺の10Km/Dayを目安に2時間ほどで自宅に戻ってくる。毎日新しいルートを開拓していくことが楽しく、同時に新しい発見(おいしそうなお肉屋さんや、こんなところにしゃれた公園があるんだ。ええFootpathもあるぞ!)も沢山あった。毎日気に入った風景をiPhoneで撮影して Facebook への投稿

していった。確認してみると Facebook への投稿は 195 日間(10 月 17 日まで)続いていた。散歩が終わり自宅に戻るとロフトに上がってメールの確認と返信。その後 Teams や Zoom comでのネットミーティングがバタバタと始まる。昼食後には一段落するので気晴らしに部屋に敷いたゴルフ用のマットで普段は絶対やらないパターの練習に打ち込む。(その成果か不明だが、2020 年のピカデリー会というゴルフソサエティで年間優勝を果たし、メンバーから驚かれることに)また少し仕事に戻り、夕方は飲みにもいけないので、業務終了時間を待たずに、 amazon Prime アマゾンプライムで日本の映画やテレビドラマを貪り始める。日本のアマゾンプライムをロンドンから視聴するには一工夫必要で VPN と言う仕組みをつか

って、あたかも日本国内から接続してるかのように成りすます必要がある。(違法すれすれ) 私はインターリンク社のセカイ VPN というサービスを利用しており、セカイ VPN を ON にして、日本のア マゾンヘログインすれば日本のアマゾンプライムビデオを視聴することができる。最初に選んだ映画は、 若かりし草刈正雄が主演している"復活の日"(1980年公開、小松左京原作FS小説)で空気感染、致死 率 100%のウィルス蔓延と核兵器による人類滅亡の脅威を救い、そのあと主人公の草刈正雄がワシントン から南米大陸の南端まで6年かけて徒歩でたどり着くという壮大なシナリオ。この映画が公開された当 時、私はまだ中学生で映画紹介の CM が頭の片隅に強烈な印象として残っていたのだった。さらにアマゾ ンプライム経由で NHK オンデマンドを契約 (海外発行のクレジット利用)、司馬遼太郎の"街道をゆく"シ リーズや 1978 年放送の NHK 大河ドラマ"黄金の日々"(安土桃山時代にルソンに渡海し貿易商を営み巨 万の富を得た豪商の物語、原作は城山三郎)などを片っ端から鑑賞した。特に"黄金の日々"はすでに他 界した父親が熱心に見入っていた番組で、父親と同じ年代になった自分が同じドラマを観てどのように 感じるのか興味があったのだ。このドラマを観ているとなんだか昔の実家と現在のロンドン自宅(ロフ ト)を行ったり来たりしてるような心地よいノスタルジーな感覚に陥った。余談になるが、NHK オンデマ ンドの契約は後日アマゾンプライムより一本のメールが入り、海外発行クレジットカードでの決済はで きないとのことで過去の請求分を含めてすべて返金され契約解除となった。NHK 大河ドラマの他にもまだ まだ楽しめそうなタイトルがたくさんあったので残念。COVID-19 を良い機会として是非とも海外居住の

日本人にもう少し優しくしてもらえるよう善処を望む。

映像配信とくれば、お次は音楽配信の話である。私はこれまで Spotify 🗟 無料版を愛用してきたが、無 料版には①シャッフル再生のみ②定期的に宣伝が入る③ダウンロードできない④高音質は聴けない、と いった制限があり、通勤時の利用がメインであった時は特に不満はなかった。ただ、ロックダウンで家族 全員が巣籠となると、やはり好きな曲を好きな時に聴きたいと思うのが人情というものである。家族会 議の結果、有料版のファミリーパッケージへアップグレード(14.99 ポンド/月 家族 6 人まで利用可* 我が家は3人家族)することにした。私の世代の代表ミュージシャンの松任谷由美やらサザンオールス ターズなどを選曲して楽しんでみる。すると翌日には AI のリコメンド機能によって、私がもっともっと 聴きたくなるような歌手や曲のリスト (Made for youという) が自動的に作成されいる。このリストの 塩梅がなんとも絶妙で私好みのしつくりとくる曲を選んでくれているので、毎日飽きることなく音楽を 楽しむことができている。私の場合は、なぜかどんどん時代を遡り、中島みゆき、研ナオコ、山本リンダ、 石原裕次郎、なんと最後には三善英史の"雨"という名曲にまで行きついてしまった。この曲のメロディ は何処かで聞いたことがあったのだが、三善英史さんのお名前は、今回 Spotify の Mede for You に教え てもらうまでは知らなかった。さらに Spotify では音楽以外にも Podcast というインターネットラジオ もコンテンッとして聴ける。昨年の秋頃だろうか、歴史を面白く学ぶというコンセプトの COTEN RADIO (https://cotenradio.fm/)というのが Mede for you に現れた。歴史好きの私はとりあえず聴いてみ ることにしたが、これが実に面白い。内容がディープなだけでなく、3人の個性あるパーソナリティ達が 繰り出す軽快テンポの会話が魅力で、ついつい聴き入ってしまう。さらに、自分が読んだことのある歴史 小説や文献の内容なども要所要所で出てくるので馴染みやすのかもしれない。ローマ史やギリシャ史に 登場する人物の名前を覚えるのが、どうも苦手な私にとっては耳から再度インプットされることで登場 人物の名前と登場時期の再確認ができるので、記憶の整理に役立つと共に脳トレーニングにもなってい る。最近は車の運転中はこのコテンラジオを聴いている、というか聴くために車に乗っていると言った ほうが正しいかもしれない。

そういえば、ロックダウンになってからは、もっぱら映画と音楽ばかりで読書(といっても最近は電子書籍の Amazon Kindle を使っている)をする時間がめっきり減っていることに気がついた。今までは通勤の Tube 車内がメインで寝る前にきりの良いところまで読むというのが習慣になっていたのだが、在宅勤務で通勤自体が減ってしまい書籍を開く(Kindle のスイッチを ON にする)という行為に至る機会がなくなってしまった。そこで Kindle for PC を使ってラップトップ PC で読書を試みているが、今一つしっくりとこない。PC の画面だとカラーページの多い雑誌系などは読みやすいのだが、小説となると揺れのひどい Tube のシートに座り、文庫本(Kindle)を持って、きゅっと首をかがめる姿勢になり、さらに、やかましい走行音(雑音)も耳に入ってこないと私の読書スイッチは入らないようだ。長年体に染みついた習慣というものは、いくら最新 IT テクノロジーを駆使しても、そう簡単には抜けそうもない。ふと、雑多な日常が早く戻ってきてほしいなぁと思った。

カエサルと漱石

小川のり子

この二人の出会いは全く偶然。もしかしたらコロナウイルスが引き合わせたと言えるかも知れない。ロックダウンが始まり、本棚から何冊か抜き出した中に、夏目漱石の「草枕」とユリウス・カエサル(ジュリアス・シーザー)の「ガリア戦記」があった。20世紀に生きた日本の文豪と、かたや紀元前に生きたローマ帝国の創始者を、今回、2人が素晴らしい文章家と云う理由で選んでみた。

特に初めて手にするカエサルの戦記は、彼の喜び、怒り、誇りや落胆をも込められた、簡潔・明晰な文体にすっかり惹き付けられてしまった。もしこれを訳文ではなく、カエサルの生の文字に触れることが出来ていれば、そんなことはとても出来ない相談だが、この思いはより深いものになっていたことだろう。今でもしばしば耳にする、「来た、見た、勝った」(vini, veni, vicchi)や「賽は投げられた」、「ブルータスお前もか」等はカエサルの名言で、古今東西いまだに引用されている。

住みにくい

その昔、漱石の「草枕」を読み、その書き出しにひどく感心させられた。

「・・・智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。・・・唯の人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国に行くばかりだ。人でなしの国は人の世よりも猶住みにくかろう。・・・・」

当時、まだ人生経験の浅い10代後半の私が、この文から漱石の辛辣かつ諧謔味を 帯びた批判精神をどこまで汲み取ったかは疑問である。しかしその歯切れの良さに さそわれて、友への手紙に、「・・・とかく人の世は住みにくい・・・」などと書き 添え、生意気にも悦に入っていた時期があった。

今回、手にした文庫本「草枕」は平成5年発行の98版。そして読みだして最初に驚いたのは何と"注解"付で、それも330項もある。暇に任せて丁寧に読み続けていったが、現代小説がこんなに難しいとは再発見。前回は注釈なしだったが本筋だけはちゃんと理解していたはずと、今更ながら少々心細くなってしまった。漢語、漢詩、禅語、仏教語、諺、文化・絵画論その他あらゆる分野からの引用が、多彩な文章として各所に散りばめられて、まさに絢爛豪華な錦織のようと呼びたくなる。以下、注解より何の脈拍もなく面白そうなのを抜き出してみれば、

春秋に指を折り 年月を徒に過ごし、白髪の老人になるのを恐れ、悩む人々

微光の臭骸に洩れて 悪臭を放つ死体から微かな光が漏れてくるように、世俗にまみれ果てた

いとわしい生涯の中にもかすかな光明がある

雲容烟態 雲の形と霧のさま、転じて、自然の姿をいう

色相世界 目に見える世界、つまり現生世界

隋縁放曠 禅語。出来事にこだわらず、自由に心のままふるまうこと

サラド サラダのこと。明治時代はサラドと発音 「草枕」注解より 三好行雄

とまだまだあるが、今回は「別冊草枕」と言いたいほどの注解をも大いに楽しんだ。

「草枕」はこれと云った筋がない、少々風変わりな小説である。一人の画工が温泉町の宿屋で感性の鋭い女主人、那美と出会い、二人はまるで禅問答のような会話を楽しむ。この画工の日々の出来事、写生に出かけ、俳句を詠み、近くの寺の和尚と骨董品の品定めをするなどが、那美との会話と共に淡々と語られている。そして、特別なクライマックスもなく、突然終わってしまう。しかし、多彩な文章にあふれた全編は、主人公の絵画論や文明批判が語られ、自作の俳句や漢詩も披露され、豊富な語彙を堪能させてくれる。

主人公が旅の途中で"雲雀"について語っている箇所があり、面白い表現や"詩"に対する思い入れが感じられたので、少々長くなるが引用してみた。

たちまち足の下で雲雀の声がし出した。どこで鳴いているか影も形も見えぬ。絶え間なく鳴いている。方 幾里の空気が一面に蚤に刺されて居たたまれない気がする。 「・・・空気が一面に蚤に刺されて・・・」とは何となく体中がムズムズとして来る愉快な形容である。

・・・のどかな春の日を鳴き尽くし、鳴きあかし、又鳴き暮らさねば気が済まんと見える。雲雀は屹度雲の中で死ぬに相違ない。登り詰めた揚句は、流れて雲に入って、漂うているうちに形は消えてなくなって、只声だけが空の裡に残るのかも知れない。巖角を鋭く廻って、按摩なら真逆様に落つる所を、際どく右に切れて、横に見下すと、菜の花が一面に見える。

岩角にある崖縁を、「按摩なら真逆様に落つる所を」とはなんと辛辣な形容(差別語?)かと、驚いた。



雲雀はあすこに落ちるのかと思った。いいや、あの黄金の原から飛び上がってくるのかと思った。次には落ちる雲雀と、上がる雲雀が十文字に擦れ違うのかと思った。最後に、落ちる時も、上がる時も、また十文字に擦れ違うときにも元気よく鳴きつづけるだろうと思った。

黄金色に輝く菜の花畑の上空で、上る雲雀と、下る雲雀が十文字に擦れ違うとは、一瞬、見えないはずの十文字が目前に現れ、雲雀の声が聞こえてきたような気がした。

・・・・雲雀が鳴くのは口で鳴くのではない、魂全体が鳴くのだ。魂の活動が声にあらわれたもののうちで、あれ程元気のあるものはない。ああ愉快だ。こう思って、こう愉快になるのが詩である。 雲雀が全身全霊を込めて鳴き続ける声を聞いていると、その声が魂をも揺さぶり、愉快な気持ちになり、 そこに詩情が湧いてくるとこの主人公は言う。しかし、反面、哀しくて泣き濡れながら蟹と戯れても詩が出来るのも確かである。

この長閑で平穏な湯治先にも、ある日、"戦争"と言う現実が訪れる。那美さんの親戚の青年と別れた夫が満州の戦場へ旅立っていくのを停車場まで見送りに行く。プラットフォームに入ってきた汽車を、「・・・ 轟と音がして、白く光る鉄路の上を、文明の長蛇がのたくつて来る。文明の長蛇は口から黒い烟を吐く。・・・」と形容するが、もしこの主人公が新幹線を見たらどう思うかと、一瞬、心が明治から令和に飛んだ。そして、去って行く別れた夫と視線があった那美さんの顔に、一瞬、"憐み"が浮かびあがる。それを見た主人公は「それだ!それだ!それが出れば画になりますよ」と彼女の肩を叩く。「私の肖像画を描いて」という彼女の要望に、今こそ応えられると彼は思ったからだろう。

ガリア戦記 (近山金次訳 岩波文庫 1942年初版・1997年 第54版)

ガリア戦記(Commentarii de Bello Gallico)はカエサル指揮のもと、ローマ軍がBC58年からBC51年にかけてのガリア(フランス)への遠征・制覇の経緯を、彼自身が記録した書物である。この8年にかけての大遠征を、1年に一巻ずつ、計八巻に纏められ、カエサルが執筆したのは七巻までで、最終巻はカエサルの没後、別人によって書かれたそうである。

戦記は何の前置きもなく、「*ガリアは全部で三つに分かれ、その一にはベルガエ人、二にはアクィーターニー人、三にはその仲間の言葉でケルタエ人、ローマでガリー人と呼んでいるものが住む*」といきなり始まる。戦いの記録とは言えそこにはカエサル自身の喜びや怒り、悲しみや憐みの心が、勝利の誇りと、敗

北の落胆も含めて赤裸々に綴られている。

ブリタニア人との戦争

カエサルはドーバー海峡を渡ってブリテンにも攻め込んだ。殆どすべてのガリア人との戦争で、"ガリアはブリタニアから援助を受けている"を知ったからと、彼は理由付をしている。

初回は暴風の為多くの船を失い、兵糧確保も困難になりつつあるローマ軍を、カエサルは何とか勝ちぬかせ、全軍を引き連れて無事ガリアに戻ることが出来た。以下は2度目の来襲である。

・・・どの船も昼頃にブリタンニアへ着いたが、そこには敵が見えなかった。後になってカエサルが捕虜から知ったところによれば、大群がそこに集まっていたのであるが、船の大群、・・・優に八百艘以上が一度に現れたのでおじけづけ、海岸から退いて丘に隠れたのである。・・・カエサルは夜の間に約12里すすんで敵軍を認めた。敵は騎兵と戦車で丘から河に進み、ローマ軍を阻止して挑戦した。敵は騎兵に駆逐されると森の中に隠れ、自然と人工で見事に固められた場所へ拠った。・・・敵を森から駆逐した。だがカエサルは味方が敗走する敵を深逐いするのを禁じた。

しかしカエサルは再度、暴風に出会い殆どの船が壊されてしまう。10日間の昼夜をおかずの作業で、曳



き上げられた船で堡塁を築き陣地と繋がせた。そうこうしながら何度も戦闘が行われ、敵を敗走させ、都度講和を結んで人質を課しながら、ブリタニアがローマに払う租税を決めて、寒くならない前にとここから引き揚げて行く。イギリスで現存するローマ人の残した遺跡の一つに、わずかしか残っていないが、ハドリアヌス帝の長城がある。カエサルの時代から120~30年の後もガリア(ケルト)の侵入に悩まされていたローマ人だが、もしカエサルならこの長城を10年もの歳月をかけて築城しただろうかとの思いがふと過った。

ここにブリタニア人についてのカエサルの面白いコメントがある。

・・・数多い家はガリー人の家によく似ており、家畜の数もまた多い。銅や金の貨幣、もしくは一定の重さに計られた鉄の棒を貨幣の代わりに使っている。・・・木材はブナと樅を除き、ガリアにある種類はみなある。兎や鶏や鵞鳥を食べるのは良くないことだと思っている。しかし、これを慰みや道楽に飼っている。気候はガリアよりおだやかで寒気も厳しくない。・・・

戦のさなかの敵地で、何故ブナや樅が見当たらないなんて書いたのかと一瞬思ったが、ローマ兵の土木 建築の優秀性をすっかり忘れていた。彼らはインフラ作りの天才である。戦いながら道路を造り、橋を架 け、塔や堡塁を築き、戦車まで作ってしまう。その材料のほとんどが木材であるのなら、総司令官のカエ サルでもブナや樅の違いは分かったはずだろう。たまたま身近に見つからなかっただけで、イギリスに はブナもモミも生えていたはずだと思えるが。もっとも、兎や鶏そして鵞鳥までがペット(?)であった とは初耳である。

ゲルマン人との戦争

現在もそうだが、ゲルマン人種はラテン人種に比べて体躯が大きくガッシリとしている。トーガをまとい優雅な立ち居振る舞いを見慣れたローマ人からすれば、裸同然で毛皮をまとっただけのゲルマンが"恐ろしい野蛮人"と感じられたのも不思議ではないのだろう。

ゲルマーニー人は法外な体格を持ち、信じられないほど勇気があり、戦争に鍛えられていると伝えたガリー人や商人一たびたび出遭ったがその顔つきや眼の光に耐えられなかったという一の言葉を聞いたりしているうちに不意に大きな恐怖が全軍 (ローマ軍) をとらえ、すべてのものの士気、精神を全くかき乱した。・・・・或るものは恥を知り、恐怖に駆られたと思われたくないのでそのまま止まっていた。けれどもその顔色を取り繕うことも、涙をおさえることもできず、天幕の中に隠れては自分の運命を嘆き、仲間同士で互いにその危機を悲しみ合った。陣地を通じて一般に遺言が書き残された。・・・或るものはカエサルに向い、たとえ陣地を動かし前進する命令をしても、兵士は命令をきかず、恐怖から前進しないだろう、と言った。

これを知ったカエサルは皆を痛烈に叱りつける。兵士が"何処に何の目的で進軍するか"を考えるとは何

たることか。何故味方の過去や現在の武勇と努力を信じて行動しないのか。自分たちの恐れを食べ物の供給や道の狭さのせいにして尻込みするのは、指揮官を見くびるようなもので、そんなことは私、カエサルが心配することだ。今夜陣地を移動するが、みんなが臆病者の恥を知って責任を果たすか、それとも恐怖が勝つか知りたい。誰もついてこないとしても、第十軍団の者だけは自分と共に前進し、護衛となってくれるであろうと言い放った。このスピーチの後、軍団の空気が一変し、まずカエサルから名指しを受けた第十軍団を先頭に、戦争の指揮は自分たちではなく指揮官の判断であるべきと意気揚々と叫びあう。その後各地で戦闘が繰り返されるが、ローマ兵士の士気も上がり、カエサルの作戦も功を奏し、敵はレーヌス河(ライン河)を超えるまで敗走を続ける。

ゲルマン人についての興味深いコメントがある。

・・・神聖な仕事をする僧侶もなく、犠牲にも関心がない。見てはっきりとその力に助けられているもの、太陽や火や月だけを神々としている。・・・幼い頃から労働と困苦を求める。いちばん長く童貞を守っていたものが絶賛される。その童貞を守ることによって、身長ものび体力や神経が強くなるとものと思っている。二十歳前に女を知るのは恥としている。・・・獣皮や馴鹿の短衣を着ているので、身体の大部分は裸である。

カエサルは非常に"聞き上手"な人ではなかったかと、つい想像してしまう。ライン河を越えて敵地に攻め込んだりもするが、反面、志願してきた彼らを歩兵や騎兵として重用していたのも確かである。折に触れ彼らからゲルマンの風俗・慣習その他について聞いた話を、元老院宛への報告書に真面目くさって、"童貞を守るものが絶賛される・・・"と書きこむ姿を想像して、ついニンマリとしてしまう。

余談になるが、カエサル自身は中々のプレイボーイであったと聞く。有名な話では、クレオパトラもそうだし、あのブルータスの母親、セルヴィーリアも彼の生涯の愛人であったそうだ。彼の莫大な借金の第三の理由は愛人たちへのプレゼント代が原因だと云われている。

ガリア連合軍との戦いーアレシア攻防戦

長い8年間の戦いのハイライトは何と言ってもBC52年のアレシアの大決戦ではないだろうか。ここでの勝利が全ガリア制覇をカエサルにもたらしたからである。この古戦場をやっと見つけた。フランスのブルゴーニュ地方、モンバールから30キロほど南に下がるとAlise Ste Reine があり、ミシュランの地図にはその下に Camp de Caesar/Fouilles d'Alesia と小さく書かれている。



アレシアの町は丘の上の一段と高いところにあり、そこに 8 万のガリア軍が堅固な防壁と壕に守られ籠城している。包囲作戦を打ち立てたカエサルは丘の下に、それらを取り囲むように木材を集めて大規模な堡塁を造らせた。背後から敵の援軍の来襲も考慮に入れ、2 重に作られた防壁は内側と外側の幅が何と 120 メートルもあったと云われる。包囲する側が包囲される側になる場合も考えるとは、いかにもカエサルらしい。壕を造り、溝の一部を落とし穴にして細枝や柴で隠し、先端を尖らせた丸太を地中に埋めた防柵を 5 重に作り、鉄の鉤が付けた杭を地中に埋め、監視塔も建てられた。1 か月間

でこれらの作業を防壁の両側にも同じように造られたとあるから、まさに驚きである。

しかし、実際の戦闘は3日間で勝敗が決まってしまった。8万の籠城軍に26万の援軍が駆けつけ、ガリア全軍34万に対し、ローマ軍はたった5万にも満たなかったとそうである。ローマ軍のベテラン戦士に対してガリアの寄せ集め戦士の差でもあったのだろうが、カエサルの熟考された作戦と、熟知した自軍への指揮振りが大きくものを言ったのかと思われる。激戦が繰り広げられている場所に総指揮官のしるしである紅のマントを羽織って出かけ、「*苦労に負けるなと励まし、これまでの凡ゆる戦争の成果はこの日、この時にかかっている*」、と戦士たちを叱咤激励したと書かれている。

そして第7巻目の最後は、「この年のことが(カエサルからの)手紙でローマに知れると、二十日間の感謝祭が催された」と読者としては少々物足りない、それでいてカエサルらしい淡々とした文章で幕を閉じている。

小学校四年生

ビドル 惠

昭和 37(1962)年 4 月、私は足寄(アショロ)町西小学校に入学した。入学したての頃の細かいことは記憶の彼方に薄れてしまったけれど、虱取りの粉を頭から振りかけられた事だけは鮮やかに覚えている。校庭に一列に並ばされ、マスクをした保健所の人や先生方が「目をつぶれー!」などと言いながら、DDTの粉を手押しのポンプで子供達の頭髪に散布して回り、皆んな顔まで真っ白の粉吹き団子にされたのだ。

足寄町は十勝平野の北端辺りに位置し、阿寒摩周国立公園と大雪山国立公園に連なる広大な山々に囲まれた盆地の町である。町の名前の由来はアイヌ語のエソロペッ(沿って下る川)からで、釧路から阿寒の山々を越えた



後、現在の足寄川に沿って 十勝や北見へ出た事に因 む。此処に入植者が入った のは明治 33(1900)年の頃 で、町の面積の八割を占め る山林(エゾ松やトド松な



どの亜寒帯性針葉樹)の伐採が目的だった。戦後はそれに 畜産と畑作農業(テンサイ、小麦、馬鈴薯)、水力発電の開 発と続くが、典型的な内陸性気候の為に気温の年較差が大 きく、冬の寒さは北海道でも隣町の陸別町に続いて厳しか った。

盆地の底の利別川と足寄川の合流する辺りに、伐採した木材を運ぶ為の鉄道が引かれ(現在は廃線)、その周りに居住地が出来上がって小学校が先ず此処に二つと、その他に八校ほど散在していた。なにしろ足寄町の総面積は香川県と同じくらい(日本最大の面積を持った町で、人口は当時 15,000 人。過疎化の進んだ現在は 7,000 人に満たず、人口密度 1 km 平方当たり 4.77 人と、これも日本一低い)だったので、町がスクールバスを 20 台程持っており、それで子供達を学校へ運んでいた。西小学校はその中で一番大きくて一学年 4 組、 1 組 45 名ぐらい。町場に住んでいた私は此処に歩いて登校し、先ず分かったのは家が貧乏だという事。それが一番大きなポイントだった。

所謂、良いところの坊っちゃんお嬢ちゃん達と、私の様な貧乏スラム(?)育ちの子がいて、集団生活の中では嫌でも区別が付いてしまう。向こうは毎日服装を変え胸に白いハンカチで登校して来るが、こち



らは着た切り雀。男の子なんかは「ハンカチなんて勿体無い、鼻水はボロ服の袖で拭いちまえっ!」という感じだった。母は編み物の機械とミシンを使って兄から姉へ、一をして私とお下がりだったけれど、一を値ではいたりになった。時間ではもハンカチは一枚するとして、あまりれどもハンカチは一枚するとして、チリ紙はまだ文字が残っていたりも、お嬢ちゃん達の間では当時、ディズニーのキケットティッシュが流行っていたから、私は黒いチリ紙を見られるのが恥ずかしかった。そ

れで、持って行っても見せない日が多くなり、毎日の持ち物検査でX印が表に付けられて、五つ溜まる毎にバツ当番。何時も教室の掃除をさせられたものだ(多分その時のせいで、今でも掃除は苦手である)。

それから普通の家には月給というものが有る事。毎月決まった日に、お金がキチンと入って来るという事を知って驚いた。父のような職人や、大工、左官、伐採、土方人足といった手工(肉体)作業者、或いは零細農家などの自営業だと、仕事の有無で収入に波があったし、北海道の冬は屋外での仕事が全く出来無くなるので、冬期の失業保険制度が整う前は、殆どが借金して食い繋ぐしか無かったのである。

戦後、復員兵の農地開拓団員となって十勝地方に送られて来た父は、清水町で母と出会って結婚する際に、祖父の世話でY乳業に社宅付きの職を得たが、網元の四男坊に生まれて我儘に育ったせいか会社勤めが性に合わず、直ぐに退職すると帯広市の塗装業者でペンキ塗り職の見習いに着いた。母に言わせると、小さい子供を抱えて先ず住む所から探さねばならず、この頃が一番辛かったそうだ。やがて父は、持ち前の手先の器用さと"待て暫し"の出来ぬ性格が災いし、親方の止めるのも聞かずに家族を引き連れて新興の足寄町に引っ越すと、役場に近い表通りの店を借りて自立したのであった。親方の懸念通り、父の腕は良かったけれど人に頭を下げるのが苦手で、仕事を終えても手間賃の請求や催促が出来ずに、仕入れた塗料の支払いが滞ったりして、商売は思ったより上手く行かなかったらしい。

『貧乏でも、心さえ清く正しければ、胸を張って生きられる』などと教え込まれたけれど、子供の私達には良く分からなかった。現に向こうは綺麗な服を着て「今日はお父さんのお給料日だから、美味しいもの食べるんだ~♪」なんて、子供には何のつもりも意味も無かったろうけれど、こっちには凄く嫌味に聞こえた。反面、羨ましいし惨めだし、劣等感を持つなと言われても無理だった。

一年生から三年生迄は、それでもまだ良かった。受け持ちのA先生は規律のピッピッとした眼鏡の先生で、言葉使いや敬語の使い方にも自ら率先して厳しく、汚いボロ服の生徒でも一人の人間として扱ってくれて好感が持てた。習字の道具が用意できない子供達を自宅に集めて教えるといった、具体的な行動で示してくれる先生だった。ラジオ体操のキビキビした動作が記憶に残っている。

それが、四年生になって担任が新しく赴任して来たT先生に変わり、小学校生活はひっくり返ってしまった。T先生は新婚ホヤホヤの若い男の先生で背も高く颯爽としていたから、お嬢ちゃん連中の間で凄い人気だった。遠足とか運動会は勿論、職員室から教室まで来るのにさえ何時もこの連中がついて回り、鞄持ちまで居て得意そうだったから、私は根本的にT先生が好きになれなかった。先生の方も無口で何を考えているのか分からない上に、大人の顔色をじっと伺うところのある(子供らしい素直さに欠ける?)私のことが気に入らなかったのだと思う。何をしても無視されるか、失敗をすればクラスの面前でやり込められるといった日々になった。

例えば"貧乏人の子供"で、一把ひとからげにされて居た小学校生活だったけれど、そんな中でも何かの 形で自己主張したい、「私はここに居るんだ」という気持ちは誰にでもあると思う。私は勉強は可も不可 も無く、運動はからっきし駄目だったから、唯一それを発揮出来るのが図工の時間だった。

絵は随分と小さい頃から一人で黙々と描いていたそうで、早くから風景画を描きたがった私の体に合わせて、首から下げる小さな写生用の画板やそれを立てるイーゼルなどを、器用な父が手作りしてくれたから(そういう所はマメだった)、幼稚園のお絵描きでは既に"お父さんとお母さんの間に手を繋いで立つ私と、その頭上には真っ赤な太陽"といった、平面的な絵を描かされる事に抵抗を感じ、小学校では(自分で言うのも何だけど)A先生から「先生に教えられることはもう無いなぁ」と誉められるまでになっていた。

そしてこの四年生の秋に、私の絵が美術展に入賞するという事があった。美術展は確か北海道銀行の主宰で、大人と子供の部(各、小・中学校の図画コンクールで優秀だった作品が、更に支部予選を経て集められた)に分けて審査され、私のクレヨン画 "運動会"が上級生や中学生の水彩画に混じって入賞。『まだ小学四年生で、すでに遠近法を把握しており、観覧している父兄の声援が聞こえてくる様な力強い作品』と評価されたそうだ。

この過程を一切知らされていなかった私は朝礼でいきなり名前を呼ばれ、コチコチに緊張して校長先生の立つ前の壇上まで進み、賞状と賞品を受け取る事になった。その上「こ



の学校にとっても、とても名誉な事です。これからも益々精進して励むように...」といった言葉も頂き

(私は学校内の図画コンクールで、いつも金賞を貰っていたので、美術展での"入賞"はあまりピンと来ず、 賞品としての水彩画用具一式の方が嬉しかった事を覚えている)、全校生徒からの拍手と、列に戻った私 に向けられた「凄いなぁ!」というクラスの眼差しとに、少々誇らしい気分だった。

ところが教室に戻った途端にT先生から「名前を呼ばれたら、もっと大きな声で返事しろよな。それから壇に上がる時は、右へまず出てから前に進むべきだったなー」と言われてショック。そして私の手から賞状と賞品を取り上げると「俺が校長先生になって名前呼ぶから、お前ちょっとやってみろ」と言い、「声が小さい!」「もう一度!」と何回もやり直しをさせられたのである。この頃には好意的な眼差しを向けていたクラスの中からも、クスクスと忍び笑いが始まったのには参った。T先生がこれに、どの程度関わっていたのか定かでは無いが、私の絵が入賞した事ぐらいは担任なのだから知らされて居たと思う。それなのに何故、前もって教えてくれ無かったのだろう? 今更、教室でやり直しをさせられても、皆んなの笑い者になるだけだった。せっかくの賞状や賞品の価値も下がったような気がして悔しかった。

それから話はスコシ前後して昼食の時間の事。新任のT先生は「早くお前達と親しくなりたい」と初日から、昼の弁当は教壇から降りて生徒達と一緒に座って食べたので、オマセなお嬢ちゃん連中は先生の



愛妻弁当に興味津々。「先生のお弁当見せてェ〜」「お菜はなァ〜に?」 「すっごォーい!美味しそーっ!」と毎日大はしゃぎしていた。

それは、鶏肉の照り焼きや厚焼き卵などのお菜が盛り込まれた海苔弁当(あの当時は鶏肉は勿論、海苔も卵も上等弁当で、私は遠足か運動会などの特別な時にしか食べられ無かった)だったり、鮭と鶏肉のソボロに炒り卵の綺麗な三色弁当。或いはフライや焼き魚、甘辛の肉団子、鳥の唐揚げ、切り込みの入った赤いウインナーに、付け合わせはインゲンやほうれん草の胡麻汚し、甘いお豆の含め煮、お煮しめなら人参

は花型に切ってあったし、緑の胡瓜と紫蘇の実の漬物とか、刻んだ紅生姜や小梅の赤、昆布の佃煮の黒と、彩りも鮮やかで(子供だから市販の色鮮やかな物に憧れた?)細かく手を掛けた美味しそうな弁当だった。先生はそれらのお菜を箸でつまみ上げては、見せびらかしていたから良く覚えている。

皆んなに(坊っちゃん連中まで加わって)ワァーワァー騒がれて先生は嬉しそうに弁当を食べ、それで終わってくれれば良かったのだけれど、「そうだ!これからは先生だけじゃなく、皆んなの弁当のお菜も発表することにしよう!」と言い出した。「弁当じゃなくて、パンの人は何て言うんですかァ~?」「その時は"パンと牛乳"でいいよ」「は一いっ!」といった次第で、教室の端から順に発表する事に決まり、私は(他の貧乏人の子も?)以来、昼食の時間が嫌で堪らなくなったのである。

その頃の母は日雇いの土方仕事に出ていたから、自分と子供三人の弁当に手を掛ける時間も余裕も無く、私達が朝飯を食べている間に詰めて持たせてくれる弁当は、実に簡単で倹しかった。塩っぱい焼き魚が一切れだけとか、濃い味に煮付けた竹輪か丸天(さつま揚げ)、或いは大きく見えるように斜めに切った魚肉ソーセージを2~3枚、麦飯の上にデンっとのせて醤油をかけ、蓋でギュッと押さえつけただけのものだった。坊っちゃんお嬢ちゃん達が、何品ものお菜を嬉しそうに言い連ねている間で、この倹しいお菜を披露すると「えっ、それだけ?」といった無言の反応が恥ずかしく、はっきり言ってこれは拷問に近かった。

それでも弁当を持って行けるだけまだ幸せで、家に米が無くなり、隣の駄菓子屋さんから"ツケ"で借り

てきた五円の豆パン(金時豆が入った北海道独特の菓子パン)ー個だけという 日には、隣の席の子に「牛乳無しで、よく食べられるねェ〜」と言われた事も あったし、貧乏人仲間の C.M(後に有名なシンガー・ソングライターになる)を 始め、弁当を持って来れない生徒は「先生、弁当忘れました。家へ帰って食べ て来ます」と、昼食の始まる前に職員室まで言いに行かねばならなかった。

受け持ちの先生が、弁当を持って来れない事を"忘れた"と称する、生徒の意地を察してくれるなら、クラスに知れないようにそっと帰宅を許してくれるので救われるが、無神経な先生だと、わざわざ教壇に生徒を立たせ「宿題や教科書、笛を忘れる事は時々あるけど、弁当を忘れて来る奴は滅多に居ないぞ~」



などと言って、クラスで一笑させてから帰宅を許すのだ。そうして教室を出た後は運動場の水飲み場で水を飲んで空腹をごまかし(家に帰っても誰も居ないし、食べる物も無い)、鉄棒にぶら下がったりして時

間を潰しているのが見えたから、T先生の"弁当のお菜発表"案は、生徒の貧富の差を嫌でも思い知らされる事になった。

そしてある日とうとう最悪な事が起こった。T先生は病欠で空いた席に座ったので、私の隣に来て弁当を食べることになった。その日の私の弁当は、焼いた塩鯖の切り身が一切れ(鯖の乗っていた所の御飯は、塩気と脂っ気が染み込んでいて、そこが美味い)だったから、先生の"豪華お菜"に続いて「焼き魚です」と言わねばならなく、既にそれだけで気分が滅入ってしまった。それでも辛抱して弁当を食べ、「魚は骨以外は残さずに全部食べろ」と漁師村育ちの父から、それこそ猫が腹を立てるほど念入りな魚の食べ方を教え込まれて育ったので、最後の一口の御飯を鯖の皮で食べてお終いとなった刹那、先生が私の手元を見ているのに気付いた(感じた?)。

それから先生は、鼻の穴に何か飛び込んだ-とでもいう風に「ふんっ」と鼻を鳴らすと、おもむろに自分の塩鮭の皮を箸でつまみ上げて「皆んな-っ!魚の皮って喰う物かぁ~?」とクラス中に問いかけ、「喰いませーん!」の大合唱が返ってくると、「そうだよなぁ~っ!喰わないよなぁ~っ!!」と言いながら、これ見よがしにポイッと弁当箱の蓋に捨てたのである。私はそこで平然と弁当を食べ終えるだけの根性も無く、居た堪れ無くなって蓋を閉じてしまった。

T先生にどんな意図があったのか、単に無神経なだけなのか、今となっては分からない。だが、そのタイミングの良さに私はしっかりと悪意を感じた。これは勿論クラスの連中には知られていないけれど、教師が小学校四年生のチビを相手に、そういう事(イジメだ)をしても良いのか ₹ 私は本当に憤った。あの時ほど悔しかった事は無い。そして悔しがっている自分が情けなかった。この情けなさ......これが貧乏って事だ。

家に帰ると母に「何で、一口だけ残したの?」と問われたけれど、何も言えなかった。言えば悲しい思いをさせるだけだ。貧乏ってそういう事なんだ。腹わたが煮えくり返るどころじゃない、焦げついた。

T先生とは一年限り。五年生から担任がK先生に変わったので、小学校生活はずっとましになったけれど、この時の屈辱は私の人生(大げさじゃなく)最大のポイントだった。子供一人一人に生活の差が有るのはどうしようもない事、劣等感を持つなと言われても子供は持ってしまう、理屈ではない。

この貧乏コンプレックスは、小学校を終えて中学校に入るまで続いた。中学校は、十校に分かれていた生徒達をスクールバスで掻き集めたマンモス学校。全員が夏冬のシーズンを着たきりの制服で過ごすし、給食も開始されたから貧富の差が目立た無くなった上に、この頃には各々の特徴が出て来て『それぞれの良い所を認め、弱い所はお互いにカバーし合っていこう!』みたいな事を、級友の C.Mが生徒会長に



なって率先して始めたので、学校が楽しくなって来る。

さて現在私は、人並みぐらいの生活をさせて頂いて居るが、魚の皮は残さずに食べる(食べ物は、何でもありがたく頂くので、それが体型に現れてちょっと悲しい)。どんな魚でも香ばしく焼いた皮は旨いし、



煮込んでゼラチン質たっぷりの甘辛い皮も然り。甘鯛の皮などは"湯引き"や"松かさ焼き"といった調理法まで有って珍重されている。脂が乗った鮭の皮に至っては、少量の腹身を残して 2cm 幅に切ったものに塩を振り、腹身を芯(内側)に軽く巻き楊枝で止めて、こんがりと炙った物は至福の味だ(今では夫まで感化されて、ロンドンのジャパン・センターで買える、肉厚の鮭の皮をとても楽しみにしている)。

要するに貧富の差では無く好みの違いである。とは言え、小学生の子供にそんな事の分かる訳が無い。

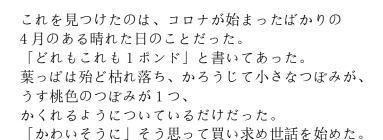
某総理大臣は『貧乏人は麦を喰え』と言ったそうだが、この"魚の皮"の件に於いて私は『貧乏人は魚の皮まで喰う』と言われたような気がしたのである。そしてそれは心に大っきな傷となって残り、半世紀以上経った今でも忘れられずに居る。食い物の恨みは恐ろしいのだ。

ポエム

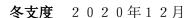
田村陽子

ベゴニアの花 2020年11月

11月のある寒い朝、霜が薄っすら降りていた。 台所から外を見ると、あのベゴニアが、 うす桃色のベゴニアが 椿の花みたいに大きく咲いて、こちらを見ていた!



それがこんなに立派に成長して、私を慰めてくれる。 ありがとう!私のベゴニア!





Tさんからいただいた"Mandevilla"という蔓科の赤い花。 トランペットの形をした情熱的な赤い花。

「冬の寒さには弱いのょ」 彼女のアドバイスを思い出し、 透き通ったビニールをグルグル巻いて包んでやった。

その時!

「あったかーい!」 という花の声が聞こえたような気がした。



かぼちゃ 2020年 12月

「エイッ!ヤッ!」なかなか切れない。このかぼちゃの硬いこと!

パリッ!あっ、やっと切れた!

こうして いくつも小さく切って 調味料を入れて ことこと煮る。

ホクッとして何と美味しいこと!

砂漠原産のかぼちゃは、水分が失われないようにと、

皮を厚くし、身を守っているのだとか。

かぼちゃさえ、神の知恵を。まして、人間に、この地上で苦労する人間に、

身を守るようにと、味のある人生になるようにと、

神の知恵が 働かないはずがあろうか!



コロナのおかげで

コロナのおかげで、

突然降って湧いたようにやってきたコロナのおかげで、

zoom と言う未知の世界に入りこんだ。日本にいる人とロンドンを結んで同時に顔を見て話す事ができるなんで!

コロナのおかげで、

メールや心なごむ動画の交換が頻繁となり、

お互いに励まし、元気づける事が出来るようになった。

コロナのおかげで、

家の中の断捨離が進み、家の中も心もスッキリ。

もう余計な衣類は買わない事にした。

コロナのおかげで

食事の内容が変化した。

今まで無視していた、缶詰食品、豆類や魚類、を見直すようになった。

それらは、工夫次第で、なかなか味わい深く、栄養も有り、何よりも便利だ。

コロナのおかげで

命の重さを真剣に感じるようになった。

まだ、死にたくない!まだその時でない!そう思って心をこめて、マスクを縫った。

外出後はしっかり手を洗い、うがいをした。

幸いにも受ける事が出来たワクチン。それでもマスクと手洗いは欠かさない。

コロナになんか負けたくない!

それにしても、このコロナの災いを無事に通過し、私に

あと10年の命を神様が下さるとしたら、

私はその10年で何をしょうというのか。

ずっしり重い私への課題だ。

桜植樹委員会の一員となって

ウィンター千津子

2018年3月、英国日本人会佐野前会長から 電話で「桜の事務局長無償で悪いけれどや ってくれないか」と言われました。桜? 2017年頃から JA 理事会の度に時々、耳に していた言葉でした。

「はい」とは言ったものの、何だか全く見 当がつきません。でも佐野会長がおっしゃ るのだからと引き受けてしまいました。



桜植樹のきっかけは、2016年6月に「ヘンドン日本人墓地80周年記念」が行われ、日本から麻生副総理(日本人墓地を80年前に作られた当時の在英吉田日本大使、後の吉田総理大臣のお孫さん)、当時の鶴岡日本大使をお招きして行われました。その式典で、墓地管理の責任者である藤田さんが桜の木を2本用意し、1本は副総理と大使により、もう一本は佐野会長とバーネット市長の手により植樹されました。その1週間前にはBrexitが発表され、佐野会長は、英国がEUから脱出する、これから苦難の道を行くが、英国永住日本人と日本企業は英国に留まり、過去の日英交流への感謝の意を込めて英国に日本の桜の木を植えて友好を繋いでいきたいと思われたそうです。

その後、鶴岡大使がこの案にご賛同くださり、また、日本の日英協会の塚本理事長も賛同され、日本で多くの企業から寄付を集めていただき、その額は6500万円以上にも上りました。

この桜植樹については2017年秋にメイ前首相が日本を訪問した際、これまた、当時の安倍総理大臣との両首相の間で、ラグビーW杯が開催される2019年と東京オリンピック・パラオリンピックが行われる2020年を「**日英文化季間**」日英共同のイベント(現行では2021年まで延長)として合意し、その中でもこの「桜植樹」がフラグシップとして掲げられました。

これが桜植樹が始まった経過です。この様な大きな懸案を深く知らずに委員会の一員となった私はまず は委員会のメンバーを見て仰天、勲章を授かった人、バリバリの旧大使館員、政治家、著名随筆家、大 使館公使にその頭脳聡明な秘書等々、足が竦む様なメンバー、しかも私は桜植樹については殆ど何も知 らない。そんな私が参加した最初のミーティングは第1番目の植樹予定が Regent's Park とされてい たことから Royal Parks のお偉方お二人と委員会のランチ、ランチをしながら、会話の記録を作る、し かも英語!最初からの経路が分かっていないこともあり、また細長いテーブルを8人で囲んだ為、よく 聞き取れず、それは苦労しました。終わった後、当時の堀内公使から「ウィンターさん、今日のメモ送 ってください」と言われ、本当に大丈夫かと。。。でも佐野会長から「お助けしますよ」と言われ何とか 最初の議事録をそれは苦労しながら作成したのが昨日の事の様に思い出されます。その後も Regent's Park や Richmond Park に招待され、Isabella Foundation の中の植樹予定地、また、Richmond Park のご好意でPembroke Lodge の横の小道に10本の桜、これはこの日、「チェリーイングラム」の著者で 委員会の一人でもある阿部菜穂子さんも参加でしたのでそれに因んで、「チェリーイングラム」と言う 桜の木が阿部さんの手で植樹されました。その後、やはり Pembroke Lodge でこれが本当の English Lunch と感激するほどの美味しい、ローストビーフをご馳走になったりしました。この時も書記役。。 それからも色々な所へご招待をされました。その様な機会で植樹委員会での私の役割を説明する時、 「私は事務局担当ですが、今の所はあちこちのランチに参加させていただくばかりで。。。」で言葉が先 に続かなく、お偉方を前に冷や汗の連続でした。

その後、植樹の方は次々と植樹希望地が集まり、発足時は、1000 本寄付を目標にしていましたが、2019 年末には希望本数が6000 本を超え、植樹地も160 箇所、また400 校近い学校にも植樹をすることになりました。メンバーとの1ヶ月に一度のミーティングのおかげで徐々に桜植樹のことが理解できる様に

なりました。ただ、私のメインの仕事が記録を残すことであり、当初は日本語で作成していた議事録も、委員会の一人の英人が日本語がわからない事もあり、英語で作成する様になりました。これも二人の英人がペラペラと話すのを聞き取るには大変な作業で、一昨年の半ば頃からは録音をとることにしました。その録音を聞いても日常の口語体で話す二人の会話はわかりにくく、時々、夫に聞いたりしていましたが、イギリス人の夫も外国人の私がこの二人の会話についていくのは大変と同情してくれることもありました。

2019年11月にはRegent's Park で植樹地の方々、ご寄付をいただいた日本企業、またローカル日本人団体の方々300人あまりを招き、Duke of Gloucester,長嶺日本大使、The Royal Parks の会長のLoyd Grossman、佐野会長の指揮の元、盛大に37本の植樹祭が行われました。昨年のロックダウン前の2月には辻阪総括公使とHampton Court の植樹式に参加もしたのも忘れられない行事です。その後、パンデミックの為行われなかった植樹式ですが、昨年の12月4日には何とか、ロックダウンの規則を守りながら、佐野会長、副会長のビクトリアとカーディフのSt Fagans National Museum の植樹式に参加、長嶺前日本大使、WalesのFirst MinisterのMr Mark Drakeford、在カーディフの名誉領事のKeith Dunnさん、またWalesの各市から7名もの市長も参加、Walesと日本の友好関係を深めたとても良い植樹式でした。

奇しくも 2019 年、長嶺日本大使の英国での最初の公務が Regent's Park の植樹式であった事、またこの 2020 年 12 月は既に大使は帰朝発令が出されており、桜に始まって桜で終わられた英国ではなかったのではないかと思っています。このパンデミック中にも拘らず、ティームのロジスティック担当とナーサリーが協力し今年の 3 月までには 4200 本の桜の木を英国各地に届けました。残念な事に昨年の 3 月以来のロックダウン、集会はできなく、各地の植樹式には参加することはできませんでしたが、Cambridge 大学の 3 Colleges,UCL,RHS Garden Wisley,Oxford 大学の 1 College,益子焼で有名な陶芸家、濱田庄司と Bernard Leach が築窯した The Leach Pottery 等々の著名な場所は勿論の事、Growing community の様に、ローカルの人々が集まり、アロットメントや植物を大切にしている場所、一般の公園、住宅街にも植樹し、植樹時に撮った写真が次々と送られてきて、人々の喜びがヒシヒシと伝わってき、とても嬉しく思っています。

今年2月26日にはBBC4で、ナショナルトラストが桜や梅などの花が咲く木を英国各地に植樹する方針を報じましたが、そのプログラムの中で在英日本大使館の伊藤文化公使が私たちの桜植樹の企画についてもお話になりました。その後、私達の公式ウェブサイトの Contact us には沢山の問い合わせが届きました。「もう植樹希望の募集は終わったそうだが1本でももらえないか、Waiting list に載せてください、248人の生徒がいる学校ですが日本語のクラスもやっているので是非桜の木を植えたい」等の問い合わせが殺到しました。また、各植樹地は桜を通じて、地元の日本人社会との交流、友好関係が出来つつあり、今後、現在築き上げている日英関係が益々強くなる事と大いに期待しています。現在、私はロジスティックのメンバーと 2021年11月からの植樹地への配木、また、毎日の様に沢山送られてくる各地の植樹時の写真の収集等をし、ウェブサイト(https://japanuksakura.org/ja/mission/)に載せる準備をしています。また、各植樹地に送る記念プラーク、贈呈証書、リーフレット等の作成に忙しく、4月よりこれらを各植樹地への発送を開始する予定です。桜の花が咲き、記念のプラークを前に笑顔一杯の写真が次々と送られてくるのがとても待ち遠しい毎日となりそうです。贈呈証書にも英国・日本両国の国旗を入れ、また今後も何十年、何百年も続く日英友好関係に、私もほんの僅かでも貢献することができ、とても嬉しくまた、幸せに思います。この委員会にお誘い下さった佐野会長には心よりお礼を申し上げます。



コロナ時代の歌舞伎の味わい方

三宅和子

『英国春秋』秋号が出る頃には、コロナ禍の暗いトンネルの先に眩しい光が射し込んで、日常に落ち着きが戻りつつあるだろうか…と遙か遠くイギリスに思いを馳せつつ、日本のオリンピックの行く末を案じている3月末の東京である。しばらくぶりに(以前2016年春号で「歌舞伎の21世紀を楽しむ」を書きました)歌舞伎の話題をお伝えしたい。ロンドンの惨状は嫌というほど聞いているが、日本でも演劇一般、なんとも重苦しい状況が1年以上続いている。客席と一体になって仮想世界を作り上げる演劇は、コロナとはとことん相性が悪い。2020年の前半期にはライブ型エンタテインメントはほとんどすべて中止、延期となり壊滅状態が続いた。歌舞伎もご多分に漏れずである。興行的・経済的な問題は言うに及ばず、歌舞伎役者も見に行く観客も次第に禁断症状、焦りを募らせていった。

しかしさすが歌舞伎の底力。コロナ時代でも楽しめる形が次第に考え出されていった。そんな催しの中から私が実際に味わった 2020 年の新たな歌舞伎の楽しみ方を紹介したい。

★図夢(ずうむ)歌舞伎

第1次緊急事態宣言が解除された後も続いていた自粛ムードを追い払うように歌舞伎の歴史 400 年余



で初となるオンライン歌舞伎『忠臣蔵』が 6 月 27 日に生配信上演された。構成・演出・役者をつとめた松本幸四郎(旧市川染五郎)は、歌舞伎の手法を用いた映像作品の構想を長年温めていたという。映像配信する Zoom (ズーム)に語呂合わせして"夢を図る"歌舞伎という命名で「図夢」。舞台同様のリアルタイムでの芝居にこだわり、劇場体験では欠かせない臨場感ある芝居に加え、事前収録の幸四郎自身とリアルタイムの幸四郎が画面上で共演する、別室にいる役者を入れ込むなど、新たな世界を創出した。Zoom のチャット機能を利用した観客とのやりとりなど様々な工夫を

加え、全11段が5回に分けて配信された。

全編を通じて狂言回しの口上人形が登場し、登場人物や配



役、粗筋などを説明。忠臣 蔵の物語へ引き込んでくれ る。この斬新な試み、おも しろかったが、さすがに映 像で1回4700円はちと高 かったかなあ。



★玉三郎の『口上』『鷺娘』と歌舞伎座の舞台裏紹介

感染が少し落ち着いた8月、歌舞伎座は短時間の四部制で上演を再開した。「九月大歌舞伎」の第四部では「映像×舞踊特別公演」と冠して『口上』『鷺娘』に出演している坂東玉三郎のコメント映像が公開された。『口上』でリアル玉三郎が挨拶し、その後映像を用いて実際に歌舞伎座の奈落、せりやすっぽん、揚幕、廻り舞台などのめずらしい舞台裏を案内。次に代表作のひとつ『鷺娘』をつとめた頃の映像と玉三

郎自身の実演を交え(体力を消耗するこの演目はもはや通しで踊るのは無理だそうです)、麗しく幻想的

な世界が繰り広げられた。リアル玉三郎と映像、そしてコメントと映像と舞踊が織りなす美しい舞台に 酔いしれたひとときだった。

★図夢歌舞伎『弥次喜多』」は幸四郎、猿之助+子ども世代の染五郎、團子(だんご)

12月末には松本幸四郎と市川猿之助が出演する映像作品「図夢歌舞伎『弥次喜多』」の配信がスタートした。『東海道中膝栗毛』の主人公・弥次郎兵衛(幸四郎)と喜多八(猿之助)コンビによる「弥次喜多」



シリーズの最新作で、猿之助は今作では監督・脚本・演出も手がけている。 江戸のコンビニエンスストアを舞台に「世界の更新」を描くはちゃめちゃな SF コメディで、期待通りの笑いもありつつ、スリリングな展開で人類 全体への問いかけを残す。前回同様しっかり者の少年梵太郎を幸四郎の長 男・染五郎が、その家来政之助を猿之助の甥で、中車の長男・團子が演じ たが、今回ワケあってすっかりグレてしまっており、コンビニでやさぐれ

ている様子がいまの若者らしいリアル感がある。

歌舞伎はその時代の流 行や出来事を取り入れな がら上演されてきた歴史 がある。そうすると、コン ビニ、ヤンキーな若者、疫 病の流行というのはまさ



に「いま感」満載で笑いと警鐘を鳴らす歌舞伎らしい物語 であったといえよう。

★玉三郎の男役

最後に、私が敬愛する坂東玉三郎にもう一度登場願おう。2020年のNHK大河ドラマ『麒麟が来る』で、玉三郎がなんと、高貴な男性役に見事変身してみせたことが忘れられない。第106代天皇正親町天皇を演じたのだが、「(明智)光秀の存在や信長の存在、動乱の世の中に対しても俯瞰して見ている、包み込むような存在でいることを心掛けています」と役作りの工夫を述べている。いつも見る、妖艶な女、恥



はもちろん、自分の前後左右は空席である。

じらうような小娘や町娘、腹の据わった女房や局など、様々な女性を演じ踊り続けてきた玉三郎が、神々しさを漂わせる天皇を,これほどまでにリアルに演じたことに感動を覚えた。

こうしてあっという間にコロナの 2020 年が過ぎた。4月には歌舞伎座で玉三郎の「桜姫東文章(さくらひめあずまぶんしょう)」(四世鶴屋南北作)を観に行く。運命に翻弄され流転の人生を歩む桜姫(玉三郎)と、因果の糸に執着して身を滅ぼしていく清玄(仁左衛門)の組み合わせが実に36年振りに実現する。退廃的な美しさが横溢する名作に期待が高まる。座席

画像はすべて歌舞伎座ほか、 広告や公開されているものを使用

コロナウイルスがなければ・・・

伊東敬行

2020年は、過去というには近すぎる。コロナウイルスのせいで、非日常が日常になり、毎日が単調な生活になったような気がする。2020年は終わったのか、いや、まだ続いているのかもしれない・・・。コロナウイルスが終わるまで、少なくとも終わりが見え始めるまで、この「日常」が続くのは仕方がないのだろうか・・・。だけど、僕の生活の中で、明らかに大きな変化が2020年の年末に起きた。いや、起こされた。11月も半ばになり、2021年はいい年になって欲しい、と思いながら過ごしていたいつもの「日常」。日にちは覚えている。11月20日。毎月20日に家賃を自動で振り込むように銀行のアプリで設定してある。



いつも通り朝は7時前後に目覚め、髪はボサボサのまま出勤5秒、ベッドから 机に移動して、椅子にドサっともたれかかる。ロックダウンになった直後にアマゾンで注文した椅子。それまでの椅子は体重をかけてもリクライニングしないから、10分で背中が痛くなった。今の椅子は快適だ。我ながら、素早い意思決定で、いい買い物をしたな。ふふふ。机の上にある、昨日からの飲みかけのコーヒーを飲んで目を覚ます。パソコンの電源を入れる。Macbook は2009年に買ったオンボロだけど、まだ動くから Apple は大したもんだ。2020年に入ってすぐに買ったセカンドスクリーンにも、USBを通して同時に電源が入る。その反対側には、これまた同じ頃に購入したiPadがオンボロ Macbookと繋がってサードスクリーンとしてまあまあ活躍してくれている。ふふふ。我ながら正しい決断だったな。もうーロ、コーヒーをグビッと飲む。

パソコンが起動すれば、会社のサーバーにログイン!これで、出社完了、と。BBC iPlayer で朝のニュースを見ながら、リンゴを2個かじって、バナナを1本、ヨーグルトを少々。9時前にはテレビを消して、仕事、仕事と。この「日常」ではスーツはいらない。着替えることすら、「個人の自由」だ。仕事のテレビ会議だって、相手が見えるのは単に・・・。いろんな意味でコロナは人をダメにしている気がする。悪いのはコロナだと思う。

昨日からのコーヒーをグビーっと飲み干した頃、テキストメッセージ。おや?大家から?なんだろう、家賃は振り込まれているはずだけどな・・・。

「とても申し訳ないけれど、不動産を売って両親の面倒を見るために帰ることにした。ノーティスを出すから 12 月 20 日までに出て行って欲しい。今日家賃を払ってくれたから、デポジットは返すよ。銀行口座を教えて欲しい。」

ホワット?何じゃこりゃ?頭がいろいろな考えをめぐらす。ファクトチェックを始める。記憶を辿る。思い返せば・・・。

このオンボロなカウンシルフラットに入ったのは 2017年の4月、僕がUKに戻ってきたのが3月だから



よく覚えている。2015年にお世話になったアイルランド人の家庭に、もう一度お世話になっていた。1ヶ月以内に引っ越し先を見つけるつもりでお願いした。引っ越し先は、家賃を抑えたかったから、フラットシェアを探した。平日の仕事終わりや週末を含めて、20件前後見たと思う。できるだけ通勤時間が短い方がよかった。サウスロンドンにある会社からタワーブリッジを渡って少しのこのフラットは、見に行ったその場でデポジットを払って契約書にサインした。契約書と言ってもA4片面にデポジットの金額と、あと2、3項目ぐらい書いてあるだけだ。8畳ぐらいの広さで、セミダブルベッド、イケアの横長の机(テーブル)が2つあって、

床はフローリング、南向きで日当たりもいい。大家は若い韓国人だった。他のフラットメイトは3人、最初は全員韓国人だったかな。半年ぐらい経った頃だろうか、大家からテキストが来た。「国に帰ります」と。新しい大家に引き継ぐから心配ないということだった。その新しい大家ジェームズが、今回の騒動の発端だ。前の大家と同じく若い韓国人だ。テキストメッセージの顔写真は音楽バンドをやっている姿だ。両親の面倒を見るというのは、本当かどうかはわからないけど、韓国に帰るというのは本当なんだろうな。

僕が 2017 年に住み始めてから、それ以外の 3 部屋には、多くの住人が入れ替わり立ち替わり住んでいた。時にはエアーB&B みたいなこともやっていたと思う。僕の部屋のドアが真夜中の 2 時ぐらいにギーっと開いて、目ん玉がぎょろり。気配で目を覚ました僕が、「おいっ」と叫ぶと、「ソーリー」でドアが閉まり、別な部屋に入っていった。大家もテナントを見つけるのは大変だろうな、と思っていた。あまりにも住人が入れ替わるから、僕も彼ら彼女らと会話をすることはなくなっていった。僕の次に長く住んでいた住人が、ロックダウンが始まってしばらくすると出て行った。バーミンガムから来たと言っていたけど、どこに行ったんだろう。それ以外の 2 部屋もロックダウン前後に空室になっていた。大家からはビューイングに来る人のために入り口の鍵を開けて欲しいと言われたことがある。「新しい日常」では一日中部屋にいるけど、テレビ会議・電話もあるから、時間通りに来るかどうかもわからない知らない奴を気にしながら仕事をする訳にもいかない。一度だけならいいと返事をした。ある日、いつものように「新しい日常」のため、一日家で仕事をしていると、隣の部屋から電動ドリルの音が聞こえてきた。ドアのノブの辺りを誰かが穴を開けている。よく見ると大家のジェームズだった。「ハーイ」「ハーイ」これだけの会話だった



ように思う。何をしているのかわからなかったけど、そこに住人が引っ越してきたらすぐにわかった。南京錠をかけられるようにするための工事をしていたんだ。彼女が引っ越してきたのは10月ぐらいだっただろうか。潔癖性な感じで、自分専用の包丁から、まな板から、シチューがつくれるような大きなポット、ハンドソープや、食器を洗うスポンジまで、フラットメイトと共有するものはほとんどないようだった。しかも、ほとんどのものは使う時に部屋から持ってきて、使い終わったら部屋に持ち帰る。用心深いのかな?ある日びっくりしたのは、キッチンにいると、彼女がケトルとティーポットを持って出て来た。ケトルまで自分専用のを持っているのか!彼女が住んでいる部屋は一番小さいのに。そしてある日、部屋から大きな炊飯器を出してきた。ドラえもんの四次元ポケットかっ!

ある時、キッチンで洗い物をしていると(といっても5分ぐらい)、バスルームのドアがバタンと開いて、キッチンに彼女が現れ、「今シャワーを使っているんだけど、後にしてもらえない?」「ソ、ソーリー」またある時は、一日の仕事が終わってテレビを見ていると、トントン(ノックの音)、「もうちょっと音を小さくしてくれない?」「ソ、ソーリー」その次からは、テレビを見ている時に、トントンと来たら、すぐにボリュームを小さくするようになった。

一部屋は空室、隣は彼女、もう一部屋は韓国人の学生らしき女の子が、潔癖性の彼女の少し前から住んでいたけど、いつまでいるのか聞いたことはなかった。フラットを売却するというのも、あながち嘘ではないかもしれないな。大家に返事をした。「UK を去ると聞いて残念だよ。みんな厳しい状況だからね。1月か2月まで住むことができる可能性はあるかな?クリスマスが近づいてきて、新しい場所を探すのは簡単ではないと思うんだ。」

返事はすぐ来た。「ほとんどのバイヤーやエージェントは12月20日以降に誰かが住んでいることを望まないから無理だと思う。近くにプロパティを持っている友人がいるから紹介できるよ。」

何だそりゃ?まあ、とりあえずデポジットだけ、早めに返してもらおうかな。返してもらったら 12 月 20 日に出て行くことに合意したことになるかもしれないけど、いざとなったら居座るか、日割りで家賃を払えばいいだろう。デポジットを取りっぱぐれる可能性もあるかもしれないからな。すると、デポジットはあっという間に返ってきた。いざという時のために、その「友人」のフラットの写真を送ってもらった。同じ家賃で同じぐらいの部屋の広さだ。

仕事が終わってから返事をした。「前からストゥディオ・フラット (ワンルーム) に住みたいと思っていたから、ストゥディオ・フラットを探すよ。俺も仕事がなくなったら日本に帰らないといけなくなるだろうから、お互い大変な状況というのはわかるよ。」深夜に返事が来た。「今仕事が終わったから返事が遅くなってごめん。メセージありがとう」

前から聞いていたスペアルームというウェブサイト。検索して幾つかビューイングを予約した。週末早速1件目、今住んでいるところからそんなに遠くはない。会社までの通勤時間は10分ぐらい余計にかかるけど、コロナのことを考えると毎日出社することはしばらくなさそうだ。ビューイングしてみると、新しくてきれいなワンルームだけど、なんだかホテルに住んでいるみたいだな。生活感がない。案内してく

れたのはヴァレリオというイタリア人の若い男だった。日本のことは好きで、いつか行ってみたいと言っていた。大家に家賃の交渉もできると言うし、感じもよかった。

次は、別なビューイング予約物件。写真で見ると仕事に使えそうなデスクがあって、ソファーもある。もうこれで、決まりだな。日曜日の夕方7時に来てくれという。めずらしいな、普通は昼間の時間にフラットを案内するはずなのに・・・。行ってみると、出迎えたのは若いカップル。おや?一歩入ると目に入ってきたのは干してある洗濯物。それ以外にも、明らかに生活感が漂っている。「大家だれ?」僕が聞くと、「私だけど」彼女が答える。「どれぐらいの期間貸す予定なの?」「どれぐらい住みたいの?」なんで質問

を質問で返すのかなあ?「いつから入れるの?」「いつ入りたいの?」なんなんだ?「この部屋は?」「あ、ここはベッドルームだからダメ。私たちの荷物を入れておくから、この部屋は入っちゃいけない部屋になるから」なんだそりゃ?「いつまで?」「今はワークフロームホームだから、どこでも仕事はできるし、コロナが治るまで、この国にいる必要はないからね」ほほう。それで?「出身はどこなの?」「私はリトアニアで彼はオランダ」ふむふむ。そうだよね。人に貸して家賃を取れれば、モーゲージの返済にもなるからね。誰かが住んでいればセキュリティも心配ないからね。クリスマスだから帰国して、コロナが治ったら戻って来ればいいんだよね。部屋の管理人みたいなもんか。数ヶ月間の。なるほど、なるほど・・・。おいっ!!もう僕はすぐにそこを出て行った。なんて勝手な理由なんだ!どいつもこいつも。



家に帰って早速インターネット。引越しが面倒だから近くに物件があればいいな。幸いモノがほとんどないから、引越しは簡単だろうな。免許はあるけど UK で車を運転したことはないし。UK ではマニュアル車が普通だって聞いているけど、最後にマニュアル車を運転したのは、10 年以上まえ、いや、もっと前かな。車自体、運転するのは実家に帰る1年に1回ぐらいだし・・・。

よしっ。近場にいい物件があった。ルーフトップルームだ。念のため、違う2つのエージェントにもビューイングの申し込みをしておこう。全部近場だから平日の夕方でも大丈夫だ。おや、早速ルーフトップルームのエージェントからメッセージが来た。エージェント:「働いているの?」、僕:「イエス」、「ファーローではない?」「違います」「収入はいくら?」・・・。別なエージェントからも連絡が来た!「働いているの?ファーローじゃない?」・・・。今の大家といい、わがままカップルといい、このエージェントたちといい、どうなっとるんだ!みんな国外脱出するか、安い家賃の部屋に移っているとでもいうのか!?

ルーフトップルームは、いい部屋だったけど、いろいろうるさくて条件が合わなかった(僕も、まあまあうるさいけど)。次のエージェントは、待ち合わせ場所に行って、到着したとテキストメッセージを送ったら、電話をかけてきた。「その物件はもう決まった。さっきメッセージを送ったんだけど見なかった?あ、もしかしたら送信先間違えたかもしれない。」おいおい、嘘つけ!自転車で 5 分の場所だったので、まあ、無駄にした時間が少なくてよかった。3番目のエージェントは、時間になっても来なかったから、テキストメッセージを送った。5分後に着くというので、10分以上待ったけど来なかったので、帰った。近場でよかった。

最後の週末は引っ越しと仮定すると、週末はあと3回しかない。この間に分かったのは、多くの場合エージェントは、土曜日は午後2時まで営業しているけど、日曜日は休みだということだ。できるだけ効率的に物件を見て回れるように、同じエリアで土曜日に3つのエージェントとアポイントメントをとった。カムデン、エンジェル、ウォーレンストリート。まずは、カムデン。2件見たうちの1件は結構気に入った、駅から3分。だけど、会社はサウスロンドンなので、カムデンに住む強い理由がない。ポップカルチャーに特に興味がある訳でもない。次は、エンジェル。はっきり言って、詐欺広告だと思った。行ったら、「あの物件は10分前に決まったから、他の物件を案内するよ」と言う。「釣り広告でしょ?」と言ったらムキになって本当だと言ってきた。言い争っても時間の無駄なので、「別の物件」を2つ見せてもらった。物件は全部シャワーだった。今回、物件を選ぶ第一条件はストゥディオ・フラットであることに加えて、バス(タブ)があることだった。UKに来て以来、シャワー暮らしで、バスが欲しかった。「バスのある部屋をピックアップしたんだけど?」とい言うと、「あらそう?どんな部屋だった?」やっぱりあれは「釣り広告」だ。最後のウォーレンストリート。建物すべてが同じ造りの部屋で構成されていて、学生の寮み

たいだった。駅から1分。聞くと、コロナで大学の学生が激減しているらしい。家賃も下がっているそうだ。そういう意味では、意外とチャンスかも。買い手市場かな?ただ、ウォーレンストリートの物件は生憎どれも、冷蔵庫が小さくてキッチンも申し訳程度で、あまりにも学生向けの感じだったので、5部屋ぐらい見たけど、遠慮した。

これで残る週末はあと 2 回だ。週末だけだと心配になってきたので平日の朝早くに見れるように調整し

ようと思った。カムデンと、オールドストリート。カムデン8時半、オールドストリート9時、で調整できるはず。仕事への支障も最小限になるし、明るい時間に部屋が見れる。カムデンのエージェントに連絡すると、「朝7時半か10時」「OK、じゃあ8時半ね」「ノー、7時半、または、10時」「は?朝の7時半にビューイングに来いって?なんで?」「ランドロードはメディカルドクターで、ロンドンに住んでいないから」「でも朝の7時半はおかしいでしょ?」「あなたのナショナリティーは?会社の名前は?年収は?現在の住んでいる場所は?何年住んでいるの?」「は?なぜビューイングにそこまで聞かれないといけないの?」いろいろ交渉して、8時半にビューイングはできたけど、オールドストリート



のビューイングと別な日になって、時間を無駄にした。いい部屋だったけど、大家がうるさそうな感じだったのと、同じくカムデンに住む理由はないと思ったのでやめた。エージェントはビューイングを扱うのに慣れていなくて、明らかに経験不足な感じだった。もう、その時エージェントに言い放ってやった。「始めに物事が上手くいかずにトラブルになる場合っていうのは、始めだけじゃないと思うよ。」オールドストリートの物件はいいと思った。ただ、結構古い物件で、セントラルには近いけど、そこに住む必要があるのか、と思ってしまった。

段々ヤバクなってきた。友人からは、法的にはテナントを出て行かせることはできないはずだ、と言われていた。大家にそれを言うと、「それはロックダウンの時の話だ」と言ってきた。まあ、家賃が免除になる訳ではないから、どっちにしろ出て行かなくちゃいけないんだったら、早い方がいいな、と思った。ただ、引っ越し先が見つからないんじゃあ、どうしようもない。そう思いながらネットを検索していたら、GOV. UK に書いてある。2021 年 1 月 11 日までは、強制退去はさせられない。それを大家に言ってやった。「OK、じゃあ全部屋分の家賃を払ってくれ。でなければ、12 月 20 日以降何が起こっても保証できない。来週からはこの電話番号は使えなくなるから、よろしく」は?それが大家の言うことか?法制度のことはわかってるのか・・・?

いろいろネットで調べているうちに、賃貸の手続きの事が少し解ってきた。エージェントまたは大家はテナントの ID や外国人の場合は滞在許可の種類など、確認して届け出るか何かしなければいけない。今まで、このフラットに住み始めて ID も VISA も見せろと言われたことも、聞かれたこともない。A4 片面のペラ紙 1 枚だけだ。もともとろくでもないフラットに住んでいたってことだな・・・。そもそも、ここに住んでいることは合法なのか?大家は税金を払っているのか?

その週の週末。個人の大家が自らテナントを探している物件 4 件、移動時間を短くするため全部サウスロンドンで選んだ。どれもイマイチだった。いい人たちだったけど、テナント探しに苦労している感じだった。



あと週末 1 回だ。ウェブサイトでは僕が探している条件・価格帯の物件は、ほとんどロンドン中見尽くした。少し価格帯を上げて、5 つぐらいピックアプしたら、たまたま同じエージェントになった。写真はどれもいい。この中の一つに決められそうだな。エージェントにもそう伝えた。見た中から決める可能性が高いと。あと、明らかに経験不足の以前のエージェントが勧めてきたユーストンの物件も一応見ることにした。それに、日曜日にビューイングできるエージェントが一つあった。よし、これでパーフェクトだ。この中から選んで、翌週末引っ越しだ。

さて、運命の最後の週末。5件見る予定だったのに、見せられたのは1件、それもいまいちのやつ。釣り広告でしょ!でも、あきれて何も言わなかった。次!経験不足のエージェントには期待していなかった

けど、床が傾いている物件だった。直すと言っていたけど・・・。次!日曜日。キングスクロスとラッセルスクウェアの中間辺り、場所はいい。でも、部屋は狭いだろうな。午後2時半待ち合わせ。10分待っても来ない。「もうすぐ着くよ」わかった。20分待った。「もうあと少しで着く」やってられない。帰った。その週末、フラットメイトの若い韓国人の女の子は出て行ったようだった。

ああ、12月20日までの週末はもうなくなった。1月まで居座るか・・・。隣の部屋の神経質な彼女がキッチンにいたから声をかけた。「いつまでいるの?」「水曜日まで」「何処に行くの?」「友達の家」そうだよな。当然行く場所はあるよな。どうしようか・・・。

つくづく思ったのは、エージェントは信頼できないということだ。釣り広告が多すぎる。一つ思い浮かんだ。最初に会ったヴァレリオは写真で選んだ物件を案内してくれた。彼のところで選ぼう。そして物件を5つピックアップした。12月20日まであと6日。月曜日は仕事でやらなくちゃいけないことがある。早くて火曜日だ。20日日曜日まで5日間、土曜日までだと4日だ。ヴァレリオと調整して火曜日の午後5時に待ち合わせした。

火曜日。ヴァレリオに会った。「最短で何日で契約できる?」「そうだな、3日~4日かな」「わかった。今日決めるから、20日日曜日に引っ越したい」「オーケー」彼は状況を知らないので、真剣には受け取っていなかった。その日、選んだ物件を全て見た。写真通りだった。気に入った物件が2つあったので、2つとも申し込んだ。「大家はどこにいるの?」「海外だ」「返事はすぐ来る?」「すぐ来る場合が多いけど、中国だから時差がある。明日の午前中に申し込めば、明日中に返事が来る可能性があるけど、午後に申し込むと返事は早くて翌日になる。」「わかった。今日の夜申し込みを送るから、明日の朝頼むよ。」

水曜日。大家からの返事は早かった。家賃もヴァレリオのところで交渉してくれて、少し安くしてもらえた。このエージェントは信頼できるけど、手続きはかなりがっちりしている。海外の大家の物件を扱っているからだろうか。手続きを別な会社に依頼していて、そこから OK が出ないと契約できない。会社へのリファレンス。同僚にお願いして数時間以内に返事をしてもらった。こんなに細かく聞かれたのは初めてだったと言っていた。ID、VISA、バンクステートメント、仕事は忙しかったけど、「新しい日常」では誰も見ていない。すぐにファイルを送った。現在の大家のリファレンスが必要だという。今日は水曜日だ。隣の部屋の神経質な女性も出て行った。ヴァレリオに聞いた。「日曜日までに契約できるかな?」「日曜日は休みだ」そうだよな。「土曜日?」「鍵の引き渡しは土曜日にできるけど、契約手続きが金曜日に終了しなければ来週になる」え?「リファレンスはいつまでに必要?」「中国との時差があるから、金曜日の午前中だな」おいおい!大家にテキストメッセージを送った。リファレンスに返事をしてくれ!頼むっ!!

木曜日。このフラットはもう俺一人だ。使いたい放題だ。相変わらず部屋にこもって仕事をしていた。宅配が届いた。聞いたことない名前だ。今は俺しかいない。知らないと言ったのに、俺の名前を端末に入力して、受領したことにして、ものを置いていった。ワインのボトル6本がダンボールに入っている。フラットの中に入れるのは気味が悪かったから、ドアの外に出しっぱなしにしておいた。大家からの返事はない。大家として違法な状態だったから、返事できないんじゃないか?もう、韓国に帰ってしまったんだろうか・・・。パソコンから大家にメールも送った。仕事が終わった。夜遅くヴァレリオからテキストが



来た。「大家はどうなっている?」「返事がない」「メールアドレスを教えてくれ」「わかった、今教える」ヴァレリオはいい奴だ。明日の朝までに連絡が来なかったら、今週末は無理だな・・・。このフラットに住んでいるのは、今や俺一人だ。廊下の電気もつけっぱなしで、テレビの音量も気にすることなく寛いでいた。ドンドンドン!ドアをノックする音が聞こえる。誰だろう?外は雨が降っている。いつもはすぐドアを開けるが、なんとなく嫌な予感がした。ドアは開けなかった。「誰だ?」「お前は誰だ?」「俺はテナントだ。お前こそ誰だ?」「俺のことを知る必要はない。ジェームズ(大家)はいるのか?」「ここにはいない」「韓国に帰ったのか?」「知らない」「俺は誰から鍵を受け取ればいいんだ?」「知らない」「鍵をよこせ」「それはできない。ジェームズに聞け」

すりガラス越しに奴の顔を見た。雨が降っている中、フードを被った不気味な顔が浮かび上がっていた。 俺は部屋に戻った。奴も何処かに行ったようだった。 金曜日、外に出しておいたワインボトルのケースは無くなっていた。相変わらず「新しい日常」ではあったけど、この1ヶ月、特にこの1週間は気が休まらなかった。ヴァレリオにテキストした。「バックアッププランに移ろう。大家のリファレンスなしで進めてくれ。」「リファレンスは終了した。俺が送ったメールが良かったようだ」「グレート!サンキューヴァレリオ!!」



その日に備えてアマゾンで購入していたダンボール 15 箱と、電話をかけまくってようやく見つけた引っ越し用のヴァン、初めての UK での運

転、10年以上ぶりのマニュアル車の珍道中でなんとか無事土曜日に引っ越すことが出来た。翌日は身体中が痛んだ。でも引っ越しができて良かった。全部コロナが悪い。2021年はいい年になると思う。コロナが治るから。2020年に膿は出し切った。



『英国春秋』 2021年春号 (ISSUE NO. 38)

編集人 小川のり子 発行所 英国日本人会

原稿の送り先 <u>bunshu@japanassociation.org.uk</u>

タイトル フリーまたは特集に寄せて

枚数 A42~3枚 (出来ればワード添付)

次号締切 2021年9月15日 (但し 原稿随時受付)

45

